

令和 7 年度 鹿児島大学工学部
ファカルティ・ディベロップメント委員会報告書
(令和 8 年 3 月)

鹿児島大学工学部
ファカルティ・ディベロップメント委員会

令和 7 年度 鹿児島大学工学部FD委員会活動報告書

はじめに

工学部ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下、FD 委員会）は、各教員の教育改善の取組を支援するとともに、各学科（プログラム）および学部教育全体の教育の質向上を目的として活動を展開している。

工学部に設置された全 7 プログラムのうちの 5 プログラムは日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けており、残る 2 プログラムにおいても JABEE 基準に準拠した教育が行われている。これまで継続して実施してきた授業アンケートに基づく改善などの FD 活動は、JABEE の求める教育改善のための PDCA サイクルに則って実施されている。

本報告書は令和 7 年度の工学部 FD 委員会の活動状況を取りまとめたものである。作成にあたっては各プログラムの FD 委員および学生係職員が連携し、評価アンケートのデータ処理等については事務支援室職員の協力を得た。ここに、関係各位のご尽力に深く感謝の意を表する。あわせて、本報告書をご高覧のうえ、FD 委員会自体のさらなる改善に向けて忌憚のない意見を賜れば幸いである。

令和 7 年度鹿児島大学工学部ファカルティ・ディベロップメント委員会
委員長 橋本 雅仁

令和 7 年度 鹿児島大学工学部ファカルティ・ディベロップメント委員会委員

委員長 橋本 雅仁	（工学部副学部長，第 1 号委員）
委員 定松 直	（機械工学プログラム，第 2 号委員）
委員 野見山 輝明	（電気電子工学プログラム，第 2 号委員）
委員 鷹野 敦	（建築学プログラム，第 2 号委員）
委員 二井 晋	（化学工学プログラム，第 2 号委員）
委員 安達 貴浩	（海洋土木工学プログラム，第 2 号委員）
委員 加藤 龍蔵	（情報・生体工学プログラム，第 2 号委員）
委員 高梨 啓和	（化学生命工学プログラム，第 2 号委員）
委員 野間 尚宣	（理工学域事務部長，第 4 号委員）

事務 薬丸 洋史	（理工学域事務部・工学系学務課学生係長）
事務 門田 郁美	（理工学域事務部・工学系学務課学生係）

目 次

第 1 章 令和 7 年度の鹿児島大学工学部の FD 活動	1
第 2 章 工学部 FD 講演会および鹿児島大学 FD ワークショップ	
2.1 工学部 FD 講演会（理工学研究科・理学部との合同）	1
2.2 学外 FD 研修	2
第 3 章 学生による授業評価とそれを生かした授業	
3.1 学部授業評価アンケート分析結果	
3.1.1 学部平均値の推移とその分析結果	3
3.1.2 機械工学プログラムの推移とその分析結果	5
3.1.3 電気電子工学プログラムの推移とその分析結果	7
3.1.4 建築学プログラムの推移とその分析結果	8
3.1.5 化学工学プログラムの推移とその分析結果	9
3.1.6 海洋土木工学プログラムの推移とその分析結果	10
3.1.7 情報・生体工学プログラムの推移とその分析結果	11
3.1.8 化学生命工学プログラムの推移とその分析結果	12
3.2 授業計画改善書の各プログラムの活用状況	
3.2.1 機械工学プログラムの活用状況	13
3.2.2 電気電子工学プログラムの活用状況	13
3.2.3 建築学プログラムの活用状況	13
3.2.4 化学工学プログラムの活用状況	13
3.2.5 海洋土木工学プログラムの活用状況	14
3.2.6 情報・生体工学プログラムの活用状況	14
3.2.7 化学生命工学プログラムの活用状況	14
第 4 章 プログラムにおける FD と JABEE への取り組み	
4.1 JABEE 認定プログラムを実施しているプログラムでの取り組み	
4.1.1 機械工学プログラム	15
4.1.2 電気電子工学プログラム	15
4.1.3 建築学プログラム	16
4.1.4 海洋土木工学プログラム	17
4.1.5 化学生命工学プログラム	17
4.2 JABEE を受審していないプログラムでの取り組み	
4.2.1 化学工学プログラム	18
4.2.2 情報・生体工学プログラム	19

第5章	GPA 制度の現状と学習成果	
5.1	年間 GPA の推移	20
5.2	年間修得単位数の推移	22
5.3	卒業者数と卒業延期者数の割合の推移	23
5.4	学習成果と質の向上	
5.4.1	学習成果と質の向上の経年変化	23
5.4.2	令和7年度の学習成果と質の向上	25
第6章	特筆すべき取組や改善事例	27
第7章	令和7年度工学部のFD活動の総括と今後のFD活動	
7.1	令和7年度の工学部FD活動の総括	27
7.2	今後のFD活動	28

参考資料

令和7年度中間授業アンケート書式
 令和7年度前期授業公開科目表
 令和7年度後期授業公開科目表
 令和7年度工学部授業参観報告書書式
 令和7年度授業評価アンケート書式（講義演習用）
 令和7年度授業評価アンケート書式（実験用）
 令和7年度授業計画改善書

第1章 令和7年度の鹿児島大学工学部のFD活動

工学部FD委員会の任務は、(a)本学部で実施するFDに関すること、(b)本学部で実施する教育課程および教育活動に関する自己点検・評価に関すること、(c)それに基づく教育の改善および質的向上に関すること、(d)本学FD委員会から付託された事項に関することなどを審議し、実施することである。この任務に基づき、令和7年度の工学部のFD活動は、本FD委員会が主体となって、(1)授業アンケートの実施と授業計画改善書の作成、(2)授業公開と授業参観の実施、(3)FD講演会の実施、(4)学外FD研修会への学部教員の派遣、(5)授業評価アンケートの分析、(6)報告書の作成の6つの活動を行った。また、本FD委員会では、本学における教育の内部質保証に関する推進要項に基づき、以下の2点のモニタリング項目について自己点検・評価を行うとともに、さらなる改善のための方策等についても議論した。

- ・卒業時学生からの意見聴取の結果による学生の学習成果に対する認識の把握
- ・授業の内容および方法の改善を図るためのFDの組織的な実施とその成果の把握

第2章 工学部FD講演会および鹿児島大学FDワークショップ

2.1 工学部FD講演会（理工学研究科・理学部との合同）

令和7年度の工学部FD講演会は、理工学研究科・理学部・共通教育センターとの合同により、令和7年10月15日（水）13時から開催された。講師は九州大学システム情報科学研究院情報知能工学部門教授の島田敬士氏で、演題は「生成AIは大学教育と業務をどう変えるか―実践事例と展望―」であった。

本講演は、ChatGPTをはじめとする生成AIが大学における教育・研究・業務の現場に急速に浸透しつつある中で、導入の端緒や実際の効果に関する戸惑いや疑問に答えることを目的として企画された。

講演ではまず、授業設計への活用として、シラバス作成支援AIやスライド・講義骨子の自動生成といった設計・準備段階での利用に加え、スライドからの自動ナレーション付き講義動画生成による授業の高度化、RAG型チャットボットによる質問応答、難易度別の作問やレポート提出前の自動チェックなど、作問・評価に関する活用例が紹介された。続いて、シラバスAIによる科目推薦や類似科目の検出など、カリキュラム分析および学生支援への応用についても有用な事例が示された。さらに、導入・運用上のポイントとして、大学としてのAPI契約による効率的な導入や、Q&Aボットを活用した窓口業務の効率化が挙げられた。一方で、情報漏洩リスクへの対応として、学内ネットワーク内で完結するモデルの必要性など、セキュリティ上の課題についても指摘があった。

本講演は、無理のない範囲で試行し、構築・公開可能な具体例が示されており、生成AIを即座に活用する上で実用的な内容であった。ご講演いただいた島田氏に深く感謝する。

2. 2 学外 FD 研修

会議名： 大学教育学会 2025 年度課題研究集会

開催日： 2025 年 11 月 15 日～16 日

開催地： 東京大学 本郷キャンパス 工学部 2 号館

主催： 一般社団法人 大学教育学会

共催： 東京大学

参加シンポジウム：

課題シンポジウムⅡ 「AI の有機的活用を目指す大学ライティング教育と支援体制に関する基礎的研究」

セッション開催日時： 2025 年 11 月 16 日(日) 9:30～12:00

セッション開催場所： 213 号講義室

内容：

1. 生成 AI 時代の「自律した書き手」の育成を再考する—趣旨説明— 尹 智鉉（中央大学）
2. 生成 AI 時代における大学のライティング教育と評価—第二言語としての英語ライティング研究を手がかりに— 石井 雄隆（千葉大学・理化学研究所）
3. 大学でのライティング科目における生成 AI 活用の試み 福山 佑樹（関西学院大学）
4. 考えることを手放させないためのライティング教育—学生の生成 AI 利用の分析から— 木原 宏子・鈴木 道代・北林 茉莉代・黒須 万貴子・高橋 薫（創価大学）

報告： 本シンポジウムは、今後の教育に欠かせない生成 AI について、特にライティング教育での生成 AI の利用についての講演であった。

まず導入として、ライティング教育では何のために、何を、どう書くかが重要であり、生成 AI を利用させるにあたってはオリジナリティーの維持、正確性・信頼性・倫理性などの AI リテラシー、自己調整能力、プロンプト設計能力について教育することが必要であることが示された。

その後、実際の授業での事例が講演された。まず、英文の要約における自動フィードバックによる評価の事例が報告された。学生に練習として要約を書かせ、チェックリストをもとに自動フィードバックした後、学生に修正させ、ついで別課題を実施させる手順であった。生成 AI でのフィードバックは、学生の行動や認知に影響しており、学習効果があることが示された。

ついで、初年次教育での生成 AI の使用事例が 2 件報告された。まず、レポート作成での補助的な生成 AI 使用について、1) 論文読解の補助（不明単語の説明など）での使用、2) AI の作成した文章を提示しての問題点（ハルシネーションや構文）の分析、3) レポートで使用する問いの作成補助での使用と段階を踏んで使用させた例が報告され、学生の生成

AI の認識が変化したことが示された。また、文章作成で生成 AI を 1) アイデア出し、2) 文献検索に限定して使用させ、Feedback Studio を用いて AI 使用度を自動検知された例も報告され、AI 検知度が高い学生の成績が約 10%低いことが報告された。

全体を通して、生成 AI を教育に用いることは一定の効果があることがわかった。しかし、すべての学生に有効ではなく、AI リテラシーの問題が残っており、AI の特性を理解せずに無批判で使用する場合は、教育効果が得られないこともわかった。他のセッションの議論も考慮すると、学生に AI 活用科目などを提供し、AI の正しい理解と活用を支援する必要があるようである。

第 3 章 学生による授業評価とそれを生かした授業

3. 1 学部授業評価アンケート分析結果

3. 1. 1 学部平均値の推移とその分析結果

図 3. 1. 1 (1) に講義・演習科目、図 3. 1. 1 (2) に実験系科目の授業評価アンケート調査結果の工学部全体の平均値に関して、令和 3～7 年度までの 5 年分の授業評価の推移を示す。

講義科目は、全体として安定した評価を維持しており、授業運営の基礎的な部分は概ね良好である。とくに、シラバス、授業の有用性、教材、目標達成、板書や話し方の明瞭さ、教員の熱意に関する評価が高く、授業内容を整理して伝える力や、授業そのものの運営面は高評価であるといえる。推移としても、R4 でやや落ち込みが見られた後、R5 以降は持ち直し、R6、R7 と比較的高い水準で推移している。

R7 に注目すると、全体平均は過年度平均を上回っており、講義科目全体としては近年の中でも良好な年度であったとみられる。実際に、①シラバス、④難易度、⑥教材、⑧目標達成、⑨明瞭な文字、⑩明瞭な声、⑪熱意、⑯満足度は、R3～R7 の中で R7 が最も高い水準となっている。とくに、話し方の明瞭さ、板書の見やすさ、教員の熱意、満足度は、過年度と比べても改善が比較的明確であり、学生にとって授業が受けやすく、わかりやすい形に整っていることがうかがえる。

その一方で、課題も依然として残っている。とくに、予習・復習は全項目の中で最も低く、しかも R7 は R3～R7 の中で最も低い水準となっている。また、出欠も R7 が最も低く、授業外学習や受講姿勢の面では改善が十分に進んでいないことが読み取れる。さらに、教員の対応、返却、理解に関する評価は、授業の明瞭さや熱意に比べると相対的に伸びが弱い。このため、講義科目は、授業そのものの説明力や運営面では改善が進んでいる一方で、学生の主体的な学習行動や理解の定着にまで十分結びついていないという傾向がある。総じて、R7 の講義科目は、見せ方や伝え方の面ではかなり良好であるが、学習行動の促進という点には、なお課題が残る結果であると推察される。

実験科目は、全体として非常に高い評価を示しており、教育環境と授業運営の両面で良好な状態にある。シラバス、受講人数、実験装置、実験時間、教材、理解、安全教育、TA 支

援、満足度など、実験実施に関わる主要項目が高い水準にまともっており、授業としての完成度が高いことがわかる。年次推移を見ても、R3 から R7 にかけて大きく崩れることなく、むしろ全体として上昇傾向にあり、実験科目は継続的に改善が進んでいると考えられる。

R7 に注目すると、全体平均は R3～R6 の平均を明確に上回っており、R7 は実験科目の評価が最も充実している。項目別に見ても、②人数、③実験装置、⑥講義との関連、⑦理解、⑨教員の対応、⑩熱意、⑫TA、⑮満足度は、R3～R7 の中で R7 が最高水準となっている。とくに、人数配置、装置環境、理解、TA 支援、満足度の伸びは目立っており、教育条件の整備だけでなく、学生が学びやすい支援体制が強化されていることがうかがえる。また、満足度が R7 で最も高いことから、実験科目が学生にとって学習成果や達成感を得やすいように改善されてきていることが読み取れる。

一方で、R7 がすべての項目で最高というわけではなく、シラバス、教材、実験時間、主体性などは、過年度の一部年度と同程度か、やや下回る項目も見られる。ただし、これらは低水準という意味ではなく、全体として十分高い評価帯の中での小さな変動にとどまっているため問題はないと考える。また、R7 で特定の項目が極端に低下しているわけでもなく、R3～R7 の中で最低となる項目は見られない。このことから、実験科目は一部項目に細かな上下はあるものの、全体として高水準かつ安定的に推移しており、R7 はその中でも特に総合評価の高い年度であったと言える。

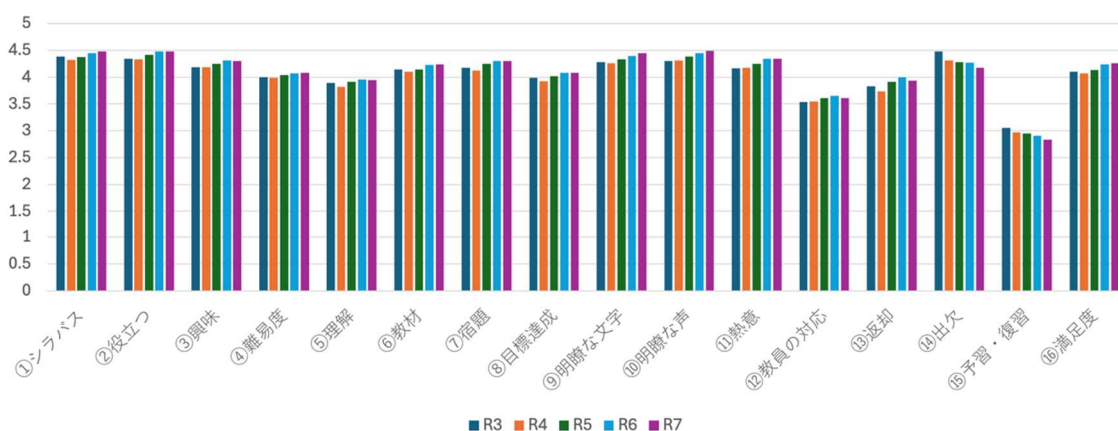


図 3.1.1 (1) 講義・演習科目の結果（工学部全体の平均）（令和 3～7 年度）

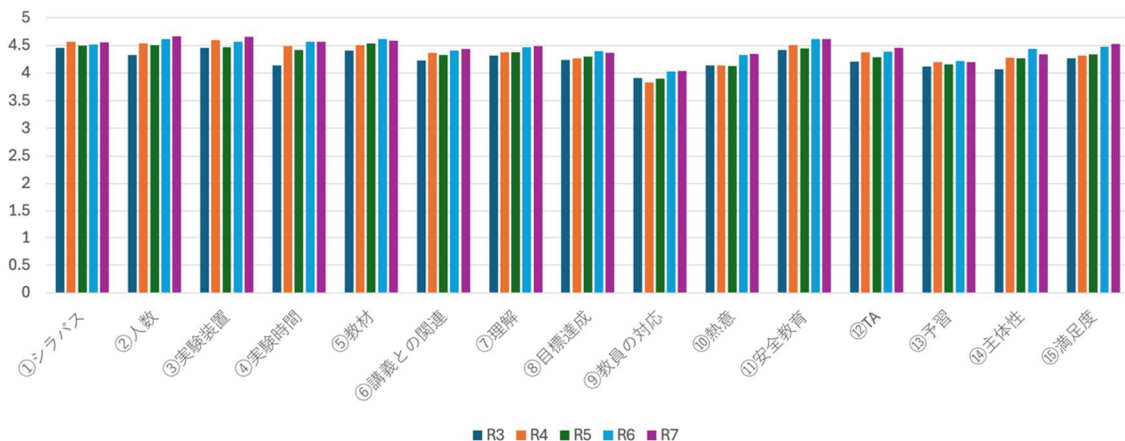


図 3.1.1 (2) 実験系科目の結果（工学部全体の平均）（令和 3～7 年度）

3. 1. 2 機械工学 PG の推移とその分析結果

図 3.1.2（1）には、機械工学 PG の講義科目、図 3.1.2（1）には、機械工学 PG の実験系科目に対して実施された授業評価アンケートの評価結果を示す。

講義系科目は、全体として安定した評価水準を維持しており、授業運営の基本的な部分は概ね良好である。とくに、シラバス、授業内容の有用性、教材、宿題、目標達成、板書の明瞭さ、話し方の明瞭さに関する評価が高く、授業の構成や伝達の面では一定の質が確保されていると考えられる。年度ごとの全体平均を見ると、R3 が約 4.00、R4 が約 4.01、R5 が約 4.06、R6 が約 4.03、R7 が約 4.04 であり、大きな変動はないものの、近年はおおむね 4.0 前後の水準で推移している。

R7 に注目すると、講義系科目は、過年度と比べて総合的には比較的良好な年度であったといえる。実際に、①シラバス、⑥教材、⑦宿題、⑧目標達成、⑨明瞭な文字、⑮満足度は、R3～R7 の中で R7 が最も高い値となっている。また、話し方の明瞭さも R6 に次ぐ高水準であり、R7 の授業は学生にとって、内容が整理されていて受講しやすいものとして受け止められていたことがうかがえる。とくに、板書の明瞭さや宿題、目標達成、満足度の伸びが見られる点から、R7 は授業の見せ方や運営面が比較的良好に整った年度であったと考えられる。

一方で、課題も明確である。R7 で最も低いのは予習・復習であり、しかもこの項目は R3～R7 の中で R7 が最も低い値となっている。また、教員の対応や返却も相対的に低い水準にあり、授業内容を伝えることと、個別の学習支援やフィードバックとが十分に結びついていない可能性がある。さらに、出欠も過年度平均と比べるとやや低く、授業外も含めた学習行動の活性化という点ではなお弱さが残る。したがって、講義系科目は、R7 において授業の構成や伝達面では改善が見られる一方で、学生の主体的な学習行動や継続的な学習習慣の形成には引き続き課題があるとまとめられる。

実験系科目は、全体として非常に高い評価を維持しており、教育環境、運営体制、学習支

援の各面で良好な状態にある。シラバス、人数配置、実験装置、実験時間、教材、講義との関連、理解、安全教育、満足度など、実験科目の基盤を構成する項目がいずれも高い水準にあり、機械工学科の実験教育が安定して機能していることがわかる。年度ごとの全体平均を見ると、R3 が約 4.34, R4 が約 4.32, R5 が約 4.53, R6 が約 4.51, R7 が約 4.45 であり、R5, R6 が特に高く、R7 も引き続き高水準を維持している。

R7 に注目すると、R7 は R5 や R6 ほどのピーク水準ではないものの、依然として全体として高い評価を保っている年度である。項目別に見ると、⑨教員の対応は R3～R7 の中で R7 が最も高い。また、実験時間、講義との関連、理解、予習も、過年度平均と比べてやや高く、R7 では単に設備や教材が整っているだけでなく、実験内容と講義内容とのつながりや、学生の理解しやすさといった教育的な側面も比較的良好であったと考えられる。

ただし、シラバスは R3～R7 の中で R7 が最も低く、また TA、目標達成、主体性、満足度なども R5 や R6 と比べるとやや低い。これらは大きな低下というより、高水準の中での相対的な変動にとどまっており、実験系科目全体の評価を大きく損なうものではないと考えられる。総じて、実験系科目は、R7 においても全体として高い評価を維持しつつ、とくに教員対応や理解の面で良好な年度であった一方、ピークであった R5, R6 と比べると一部項目にはやや落ち着きも見られるという結果であった。

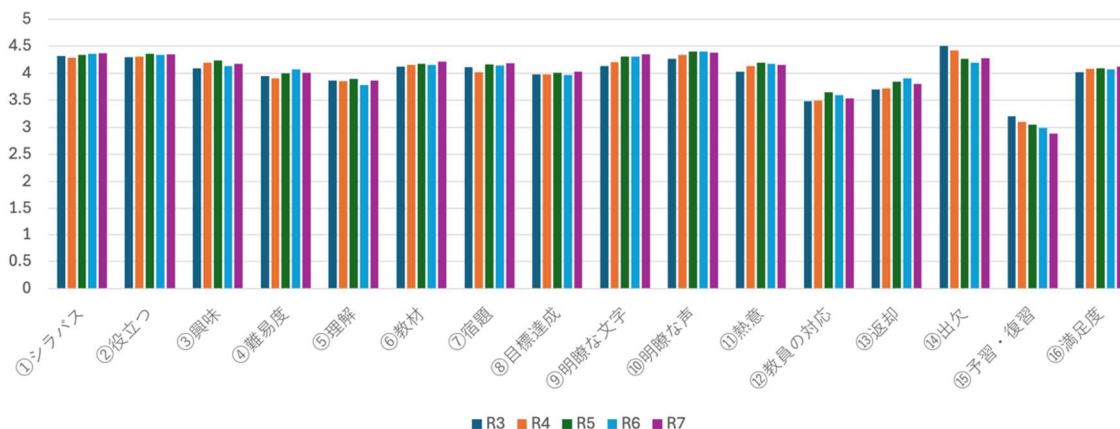


図 3.1.2 (1) 機械工学 PG の講義科目の授業評価結果の推移（令和 3～7 年度）

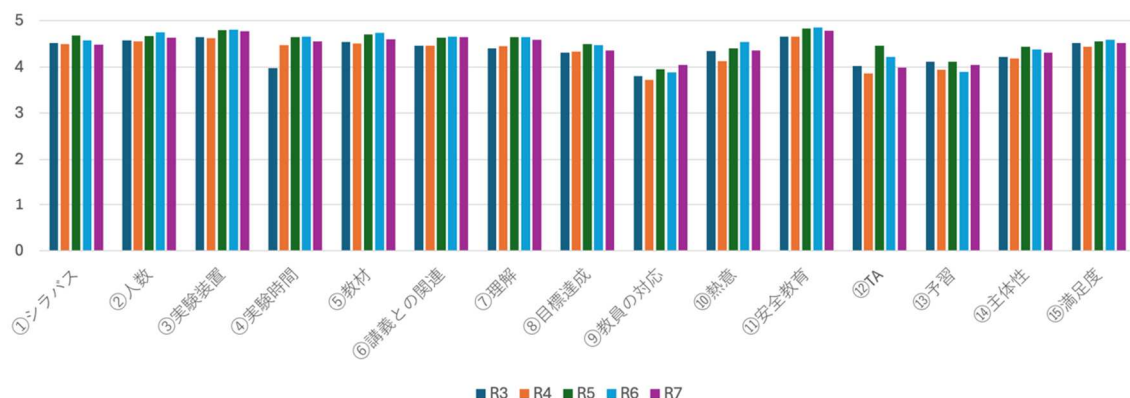


図 3.1.2 (2) 機械工学科 PG の実験科目の授業評価結果の推移 (令和 3～7 年度)

3. 1. 3 電気電子工学 PG の推移とその分析結果

図 3.1.3(1)および図 3.1.3(2)に、電気電子工学科 (PG) の直近 5 年間 (令和 3 年度～令和 7 年度) の授業評価アンケート結果の推移を示す。

講義科目に関しては、図 3.1.3(1)から、令和 7 年度は全体的に前年度と同水準の評価が得られている。平均値が 4.0 を下回る項目は⑤理解、⑧目標達成、⑫教員の対応、⑬返却、⑮予習・復習であり、このうち⑮予習・復習 (2.78) および⑫教員の対応 (3.48) は特に低い水準にある。⑮予習・復習は直近 5 年間を通じて最も評点が低い項目であり、理解や目標達成につながるような明確な課題の提示と、そのフォローアップが可能となる授業改善が今後も求められる。一方、その他の多くの項目は R5～R7 年度にかけて 4.0 を超えており、教員による継続的な授業改善の取り組みの成果が表れていると考えられる。

一方、図 3.1.3(2)に示される実験科目では、令和 7 年度もすべての項目において平均点が 4.0 を超えており、令和 6 年度に引き続き高い評価が得られている。引き続きこの高評価を維持するため、継続的な改善が期待される。

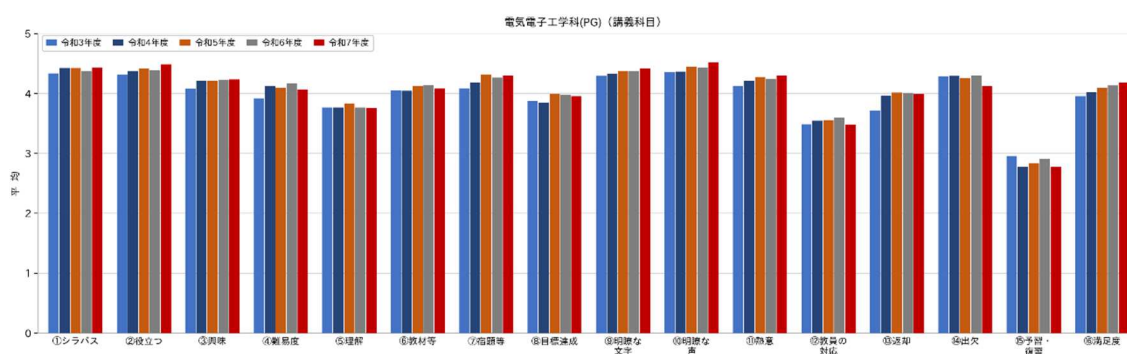


図 3.1.3(1) 電気電子工学科 (PG) の講義科目のアンケート結果の推移 (令和 3～7 年度)

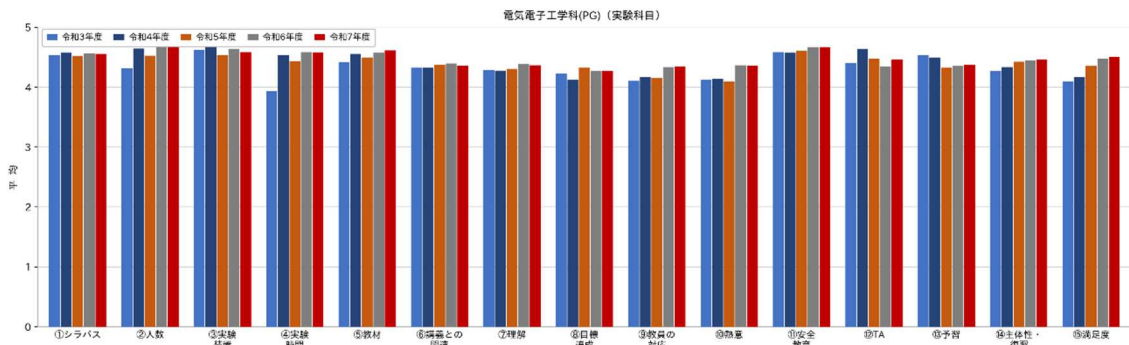


図 3.1.3(2) 電気電子工学科(PG)の実験科目のアンケート結果の推移（令和3～7年度）

3. 1. 4 建築学科の推移とその分析結果

建築学科では建築設計の演習科目が全学年にあり、その形態は講義とも実験とも異なるが、アンケートはこれらを講義科目と位置づけて実施している。実験科目は1科目のみであるため、ここでは前年度までと同様に、講義科目を対象として分析する。

図 3.1.4 は、過去6年間の年度ごとの結果を示している。ほとんどの項目で改善傾向にあり、評点は4以上の高水準を推移している。

評点が4以下の項目のうち、⑮予習・復習は標準偏差が大きい傾向がある。科目ごとの特性が出ているため、特性に応じた対応が求められる。⑫教員の対応と⑬返却は近年改善しつつある。一方、⑭出欠（すべて出席したかという設問）は低下傾向にあり、工学部平均を下回っている。科目別の評点を参照すると設計演習の成果物提出直前の座学講義の欠席が考えられる。学生自身のスケジュール管理の問題ではあるものの、科目間での情報共有や調整、提出期日の設定における配慮など、継続して学科としての改善案を検討する必要がある。

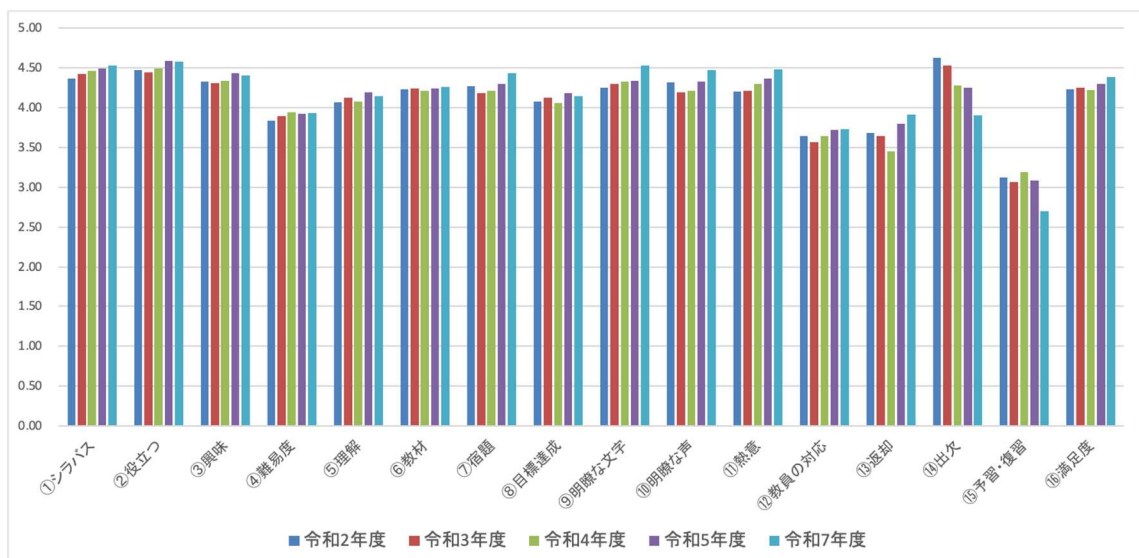


図 3.1.4 建築学科の講義科目の授業評価アンケート結果の推移（令和2～7年度）

3. 1. 5 化学工学 PG の推移とその分析結果

最近6年間（令和2年～令和7年度）の講義科目の授業評価アンケート結果を図 3.1.5(1)に示す。ほぼすべての項目で明らかな上昇傾向が見られ、継続的なFD活動の成果によるものと考えられる。ただし「⑮予習・復習」の項目は令和3年をピークに連続して低下している。この傾向は工学部全体でも見られており、工学部全体の課題として今後の工夫が必要である。実験科目のアンケート結果を図 3.1.5(2)に示す。年度によるばらつきも大きいですが、令和7年度の結果は熱意・興味・返却・満足度など、ほぼ全ての項目で上昇した。令和6年度の授業アンケートで学生からの意見が示されたことに対して、実施体制を変更した。その効果が着実に表れている。

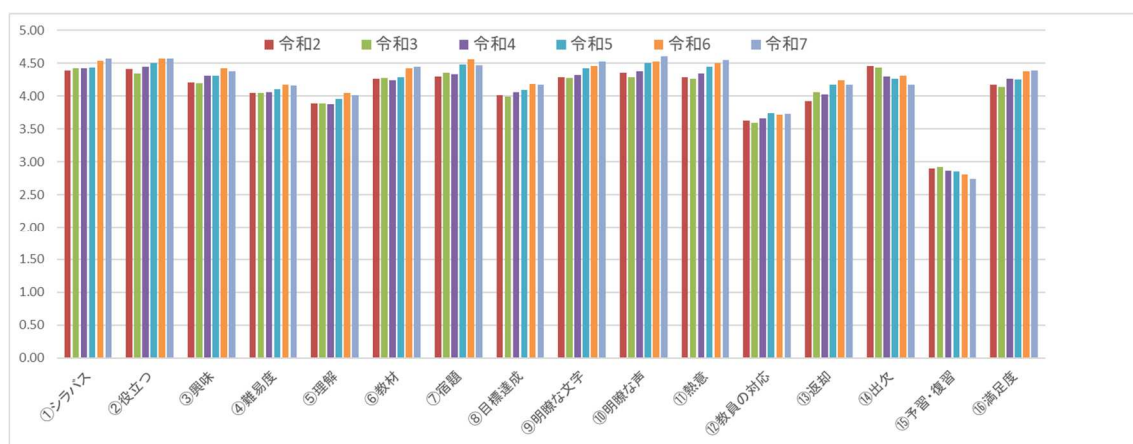


図 3.1.5(1) 化学工学 PG における講義科目の授業評価アンケート結果の推移（令和2年～令和7年度）

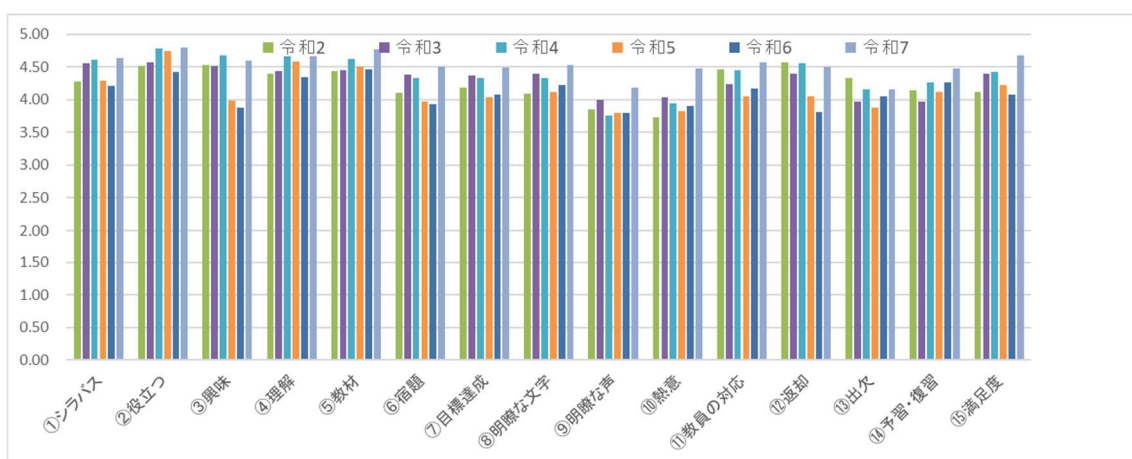


図 3.1.5(2) 化学工学 PG における実験科目の授業評価アンケート結果の推移（令和2年～令和7年度）

3. 1. 6 海洋土木工学 PG の推移とその分析結果

図 3.1.6(1)は本 PG において、令和 2～7 年度の 6 年間に実施した講義・演習科目の授業評価アンケートの結果を示す。本 PG における令和 7 年度の評価は、令和 6 年度と比べて低下している評価項目があるものの、16 項目中 12 項目で評点 4 以上となっている。さらに、全項目において工学部の平均値以上になっており、各教員による継続的な授業改善によって、全体的には高い評点が維持されていると考えられる。評価の低かった「⑫教員の対応」については、manaba アンケートやヒアリングなどを通じて問題点を明確化し、対応策を検討する必要がある。また、「⑮予習・復習」の評価は、昨年度の 2.91 から 2.77 ポイントになっていることから、やはり manaba アンケートやヒアリングなどを通じ、相対的にこの部分の評点が低い理由を明確にする必要がある。一方で、「⑦宿題」の評価は 4.24 ポイントであり、予習と復習の時間は少ないものの、レポート内容は授業の理解に役立っているとも判断できる。

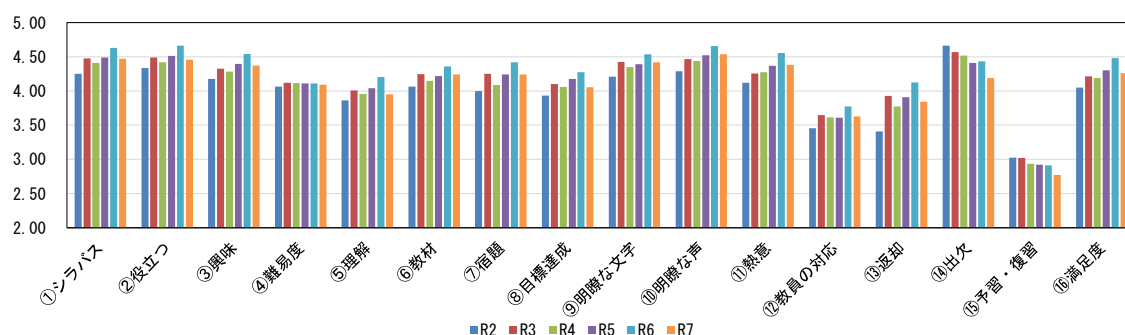


図 3.1.6(1) 海洋土木工学 PG の講義・演習科目の授業評価アンケート結果の推移
(令和 2～7 年度)

図 3.1.6(2)は、本プログラムにおいて、令和 2～7 年度の 6 年間に実施した実験科目の授業評価アンケートの結果を示す。令和 2 年度はコロナ禍のため、実験科目の多くが遠隔やオンデマンド授業となったため、この年度は特に低い値となっている。令和 3 年度以降は対面形式による実験の実施が可能となったものの、3 密回避や一部のコマを遠隔形式で実施せざるを得ないなどの制約もあった。そのため、単純に比較し難い面もあるが、令和 4 年度以降は基本的に対面による実験が実施可能となったことで、全項目で 4 ポイント以上の評価を得ている。令和 7 年度についても、前年度と同様にコロナ禍以前と同程度かそれ以上の高い評点が得られている。この結果は実験科目における対面実施の重要性を再認識させるものであり、この水準を維持した教育を継続することが重要である。

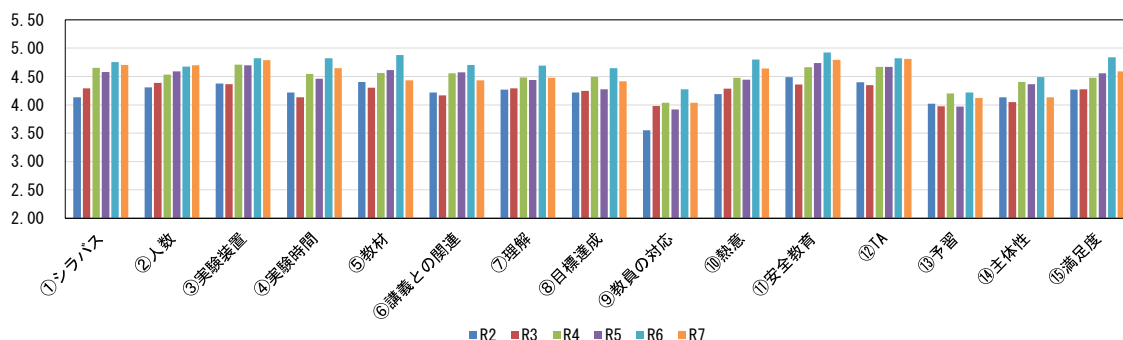


図 3.1.6(2) 海洋土木工学 PG の実験科目の授業評価アンケート結果の推移
(令和 2～7 年度)

3. 1. 7 情報・生体工学 PG の推移とその分析結果

令和 2 年度の改組により，先進工学科情報・生体工学プログラムとなった．令和 5 年度から 1～4 年生の全学年で情報・生体工学プログラムに基づき教育を行っている．

FD 授業評価アンケートは，令和 2 年度～令和 7 年度の 6 年間のデータから経年変化の分析を行う．講義系科目に関するアンケートの質問項目は，①シラバスの内容と実際の授業との一致性，②授業の今後の有用性，③授業の興味深さ，④授業の難易度，⑤授業の理解度，⑥教材等の適切性，⑦レポート等の理解への効果度，⑧授業目標の達成感，⑨文字の明瞭性，⑩声の明瞭さ，⑪教員の熱意度，⑫質問等に対する教員の対応度，⑬レポート等の評価への満足度，⑭出席回数，⑮予習・復習の時間数，⑯総合的満足度であった．講義系科目の集計結果を図 3.1.7(1)に示す．

コロナ禍が始まった令和 2 年度から 2 年間は一部の講義を除き，多くの講義が Zoom によるリアルタイム型又は，動画配信によるオンデマンド型のオンライン講義で実施された．令和 4 年度は科目によって，対面形式，オンライン形式，及び対面とオンラインのハイブリッド形式が混在した形で実施された．特にコロナ禍の鎮静化により対面講義が増えた令和 4 年度は講義形態が複雑化した影響もあってか，ほぼ全ての項目で評価値が最低となっている．令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことから，令和 5 年度から対面での講義の割合がコロナ禍以前に戻ったことによりほとんどの項目において評価値が改善されている．

実験系科目の質問項目は，①シラバスの内容と実際の実験との一致性，②実験グループの人数の適切さ，③実験装置の適切さ，④実験時間の適切さ，⑤教材の理解への貢献，⑥講義との関連，⑦理解度，⑧目標達成，⑨教員の対応，⑩教員の熱意，⑪安全教育の実施，⑫TA の熱意，⑬予習の度合い，⑭主体的に実験に取り組めたか，⑮総合的満足度であった．実験系科目の集計結果を図 3.1.7(2)に示す．令和 5 年度は情報・生体工学実験Ⅰ，Ⅱを令和 4 年度と同様にオンラインと対面のハイブリッドで実施し，情報生体工学実験Ⅲについては対面で実施した．さらに，令和 6 年度には，情報・生体工学実験Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの全てを対面で

実施したことにより、授業評価アンケートの全項目で改善が見られ、令和7年度も令和6年度と同程度の水準を維持している。これは対面での実施に戻ったことが大きく影響していると考えられる。

以上のように、講義系科目及び実験科目のアンケート結果の推移及び分析から、情報・生体工学プログラムの授業は、アンケート点数の評価としては今年度も昨年度と同様に、教員及びTA の努力により十分な水準を保っていることがわかった。

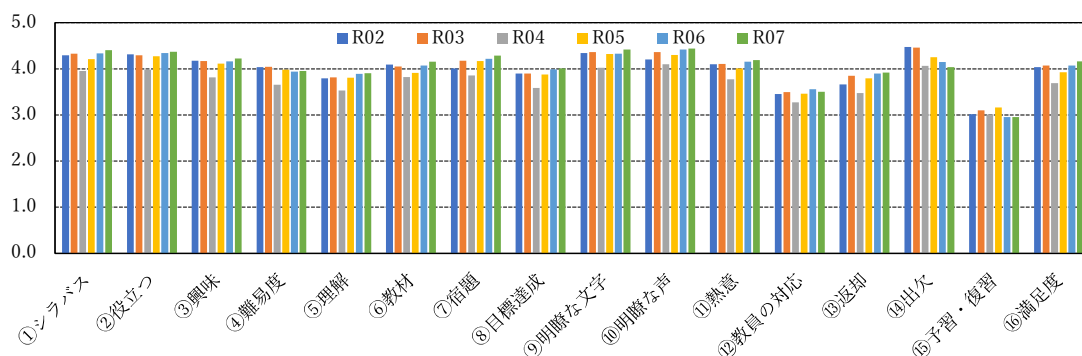


図 3.1.7(1) 情報・生体工学プログラムの講義科目授業評価アンケート結果の推移
(令和2年度～令和7年度)

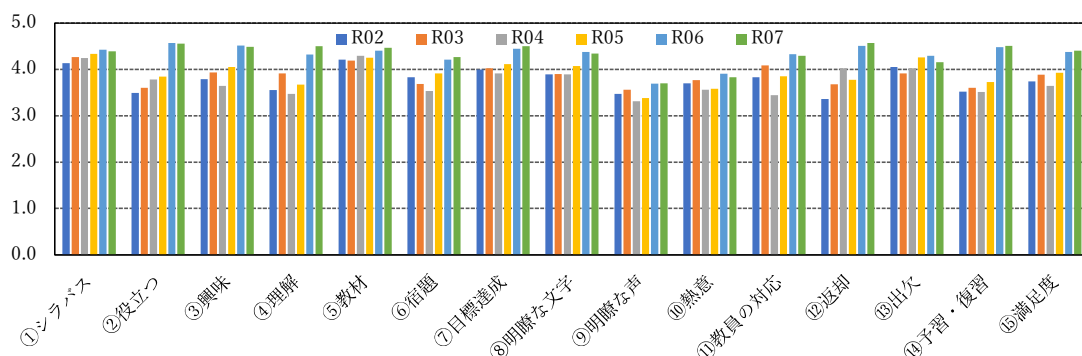


図 3.1.7(2) 情報・生体工学プログラムの実験科目授業評価アンケート結果の推移
(令和2年度～令和7年度)

3. 1. 8 化学生命工学 PG の推移とその分析結果

2025年度の集計結果を、2021～2024年度分と合わせて図3.1.8(1)に示す。今年度は、多くの項目で上昇傾向が認められた。今年度の改善状況について主な項目を個別に検討すると、上昇の程度が大きかった項目は①シラバス、④難易度、⑤理解、⑥教材、⑧目標達成、⑨明瞭な文字、⑩明瞭な声であり、④難易度、⑤理解、⑥教材、⑧目標達成が向上していることから学生の資質変化に応じて教員側が講義内容等を変更している様子がうかがわれ、FD活動の成果が表れていると考えられる。

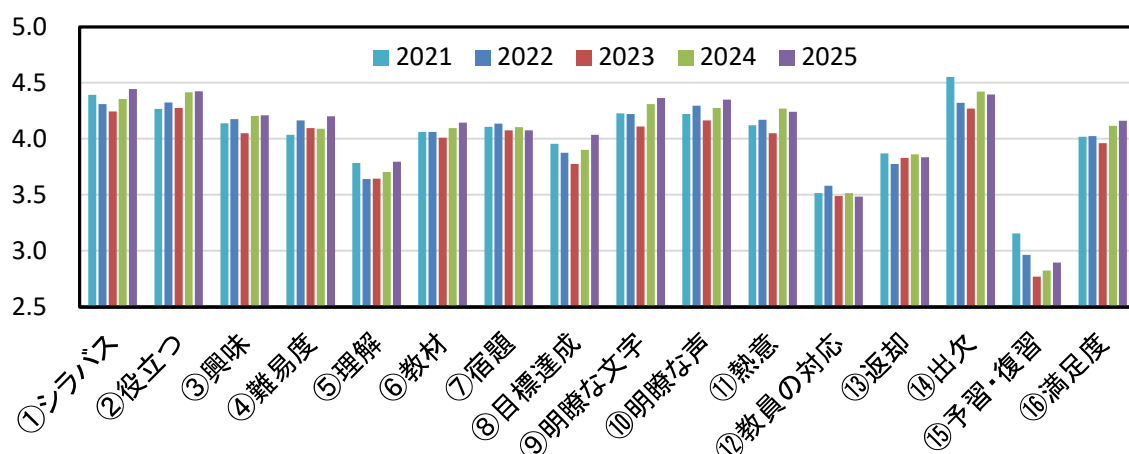


図 3.1.8(1) 化学生命工学 PG における授業評価アンケート結果の推移

3. 2 授業計画改善書の各 PG の活用状況

3. 2. 1 機械工学 PG の活用状況

PGのFD委員が収集した授業計画改善書は、授業評価アンケートの評価点や科目GPAとともにPGの教育評価委員会が整理して分析を行っている。PGの教育評価委員会は、整理した内容と分析した結果を「教育評価委員会報告書」としてまとめている。この報告書は、JABEE活動の一環としても活用されている。授業計画改善書は電子ファイルで保管され、全教員が必要に応じて閲覧できる。また、教育評価委員会報告書も電子ファイルで保管され、授業改善を実施する際の資料として利用できるように全教員に公開されている。

3. 2. 2 電気電子工学 PG の活用状況

授業計画改善書は、各科目の授業評価アンケート結果（評点、レーダーチャート、および自由記述）とともに、プログラム事務室および会議室内の JABEE 用保管庫に保管されており、教員はいつでも閲覧できる。これらは主に、プログラム FD 委員会において授業改善に取り組む際の資料として活用されているほか、JABEE 活動の一環としても利用されている。

3. 2. 3 建築学科の活用状況

教員は、授業評価アンケートの集計結果に基づいて授業計画改善書を作成し、次年度以降の授業に反映させることとなっている。授業アンケートの評点は全科目について学科会議で確認するとともに、問題点を共有することとしている。本学科では、平成 19 年度より授業満足度の評点と授業担当時間を用いて、教員の教育貢献度を評価するシステムを導入している。また、エクセレント・レクチャラーの選出においても、授業評価アンケートの結果を参考資料として用いている。

3. 2. 4 化学工学 PG の活用状況

化学工学 PG では、前期末および後期末に教員間ネットワークを開催し、成績評価の分布

や授業改善計画書および次期の開講科目のシラバスの確認を実施している。シラバス、授業改善計画書、試験問題および講義資料等は科目毎にファイルボックスに収納して専用の部屋に保管しており、プログラム教員がいつでも閲覧できる仕組みが整備されている。カリキュラムについては、カリキュラム WG で年に数回の検討・精査を実施している。今後もこのような継続的な取り組みにより、評価の再確認と改善を図っていく。

3. 2. 5 海洋土木工学 PG の活用状況

工学部 FD 委員会が学生に対して実施する専門科目の授業アンケートの結果に基づき、各教員は、シラバスに記載した評価基準との整合性を自己評価した上で、FD 委員もメンバーになっているプログラム教育システム評価委員会に授業計画改善書を提出している。提出された評価資料に加えて、プログラム教育システム評価委員会では、成績評価分布や受講生の合格率などの分析を行い、その結果をプログラム会議で報告している。プログラム教育システム評価委員会で成績評価の偏りなどに問題点が発見された場合には、担当教員に成績評価法の詳細な説明を求め、プログラム会議において成績評価法に問題が無いかを審議している。このように、授業計画改善書を活用した教育の点検および改善を継続的に実施している。

3. 2. 6 情報・生体工学 PG の活用状況

情報・生体工学プログラムでは旧情報生体システム工学科の平成 22 年度以降、授業計画改善書をプログラム事務室で保管し、全ての教員が閲覧可能な状態で管理を行っている。各教員による授業改善への取り組みおよび結果を教員全員で共有することで、学科全体の教育内容の継続的な改善に貢献している。また、プログラムとしての JABEE 申請は行わないことにし、その代わり学科内で組織している教科グループ WG において、半期に 1 度、全開講科目について担当教員による報告と振り返りを実施し、科目の内容の見直しなどの検討の際に、資料として活用している。また、授業評価アンケートの評価結果をエクセレント・レクチャー賞受賞候補推薦の資料として活用している。

3. 2. 7 化学生命工学 PG の活用状況

授業計画改善書は応用化学工学科応用化学コースの時代から引き続き同一の理念の下で活用を図っている。すなわち、授業計画改善書を、卒業生アンケート集計結果、授業参観報告書およびそれに対する回答書等とともに、各教員が分析、評価し、必要に応じて互いに連携する科目の担当教員グループで作るカリキュラム小委員会において、十分な教育効果が達成されているかどうか討論されている。検討した結果や問題に対する対策はプログラム内の教育プログラム改善検討委員会において報告され、全体カリキュラムとの整合性も考慮しつつ、最も効率の良い方法で運用できるよう検討され、必要な改善がなされている。このように、授業計画改善書等の FD 活動書類を資料として、教員間で協力・連携そして切磋琢磨するシステムが構築され、その中で授業内容・方法の改善もなされている。

第4章 PGにおけるFDとJABEEへの取り組み

4. 1 JABEE認定プログラムを実施している学科(PG)での取り組み

4. 1. 1 機械工学 PG

機械工学科(PG)は、平成16年度にJABEE認定の審査を受審した。ここで評価Wの指摘を受けていた評価項目に対しては、平成18年度のJABEE中間審査において全て改善している。平成21年度実施のJABEE認定継続審査では、評価Cを受けた項目が10箇所あったが、評価W以下の評価を受けた項目は無く、6年間のJABEE認定継続が認められた。平成27年度実施のJABEE認定継続審査では、評価Cを受けた項目が11箇所あったが、評価W以下の評価を受けた項目は無く、さらに6年間のJABEE認定継続が認められた。令和3年度に再びJABEE認定継続審査を受審予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和4年度秋に延期された。

本PGは、平成22年度から広範囲にわたる機械工学領域の教育・研究を、生産工学、エネルギー工学、機械システム工学の3つのコース(分野)で分担実施している。各コース(分野)は、複数の研究室により構成され、それぞれのコース(分野)にコース長(分野長)をおいている。この3名のコース長(分野長)と副専攻長(副PG長)から組織される「専攻教育委員会」において、学科の教育プログラムを点検していたが、平成25年度からその役割は「コース長(分野長)会議」に移管された。この「コース長(分野長)会議」での議論と各教員への提案・指摘をもとに、学科(PG)の教育環境のさらなる改善と実施体制の強化が図られている。さらに学科(PG)内には、教務委員会委員、FD委員会委員、JABEE委員会委員等からなる教育の現状を分析する委員会としての「教育評価委員会」と、JABEE認定のための審査資料作成を行う「JABEEワーキンググループ」がある。

令和4年度は、JABEE認定継続審査を受審するための審査項目や評価項目の確認などを行い、審査資料の作成を行った。令和4年度秋に受審し、令和5年4月1日から6年間のJABEE認定継続が認められた。さらに、「JABEEワーキンググループ」では、4年生の卒業時におけるJABEE修了判定の評価を行った。平成27年度より、1年生から4年生まで成績の自己点検として「学習・教育達成目標(教育目標)の達成度の自己点検」を続けている。また、卒業論文発表時に複数教員による発表評価を「卒業論文発表評価表」により実施しており、評価結果をすべての発表学生にフィードバックしている。令和7年度も、これらの委員会・ワーキンググループによって、教育の改善に関する実質的・継続的な活動を実施している。

4. 1. 2 電気電子工学 PG

電気電子工学PGでは、令和5年度に令和4年度分のJABEE継続審査を受審し、6年間の継続認定を取得した。プログラムFD委員会では、今年度、計3回の委員会を開催したほか、プログラム会議や電子メールでの議論、各種アンケートの実施などを通じて、プログラムの教育改善に取り組んだ。プログラムFD委員会を含む教育改善活動の内容は、以下の通りである。

- (1) シラバスの点検：専門教育科目の全シラバスについて点検を行い、内容の整備を進めている。
- (2) 授業評価アンケート結果等を活用した授業改善：プログラム FD 委員会において、各科目の成績評価、授業評価アンケート結果、授業計画改善書等をもとに授業の検証を行い、その結果をプログラム会議に報告している。
- (3) 新入生アンケートと追跡アンケートの実施：入学時とその 1 年後にアンケートを実施し、学生の実態を把握して、教育改善のための資料として活用している。
- (4) 学生定期面談の実施：各学期末に、指導教員による学生との定期面談を実施し、継続的な指導・助言体制を整備している。
- (5) 教員間連絡ネットワークの構築：基礎教育科目および専門教育科目（電子物性デバイス工学、電気エネルギー工学、通信システム工学）において、科目間連携会議を開催し、その内容をプログラム FD 委員会で議論している。
- (6) 社会からの要望調査の実施：卒業生と教員によるカリキュラムに関する外部連携会議を開催し、教育改善に活用している。また、卒業生に対するアンケートを実施し、その結果を改善の資料としている。

4. 1. 3 建築学科

建築学科では、令和 6 年度に JABEE 継続審査を受審し、6 年間の継続認定が認められた。建築学科における近年の FD 活動は、JABEE 関連の取組を中心に認定継続審査に向けた自己点検として、以下のとおり実施している。

- (1) JABEE 基準 1(1)に関係する社会の要求への配慮に関して、幅広い年代の卒業生を対象に建築学科の教育プログラムに関するアンケートを実施し、教育プログラムに対する社会の要求を確認した。また若手中堅技術者に相当する設計系 OB・OG と在学生との懇談会を開催し、その内容を学科会議で報告・共有することを通じて、ディプロマポリシーに定める「技術者像」との整合を再確認した。
- (2) JABEE 基準 1(2)に関して、学習・教育到達目標の能力の設定において国際基準との対応を確認するために、UNESCO-UIA 建築教育憲章が求める要件と本プログラムの学習・教育到達目標との対応を整理し、要件を満たしていることを確認した。
- (3) JABEE 基準 3(5)に関して、卒業論文と卒業設計の両科目を通してプログラムの学習・教育到達目標の達成度を総合的に評価し、修了生が知識・能力観点の内容を獲得していることを点検・確認するよう改善した。これに関連して、卒業論文の達成度評価について、1) 指導教員による評価、2) 卒業論文発表会での複数の教員による確認、3) 学科の全教員による論文の審査、という多段階での評価プロセスを明確化した。
- (4) JABEE 基準 4 に関して、教育点検の仕組み自体の機能点検を強化するために、建築学科教育改善委員会の組織に卒業生および一級建築士の資格を持つ技術者らを加えた。
- (5) 2・3 年年生が受講する建築設計 I～IV の構成と内容について、カリキュラム全体との

整合性や設計演習としての階梯性を踏まえつつ、各教員の得意分野を活かして演習のテーマや設計の方法論等を明確化しやすいスタジオ制に刷新した。

4. 1. 4 海洋土木工学 PG

海洋土木工学 PG では、平成 16 年度に JABEE 認定を受けた教育プログラムを提供している。教育プログラムに関する情報は、本プログラムのホームページを通じて広く公開されており、学習・教育到達目標と JABEE 基準との対応、各学習・教育到達目標の学習保証時間（目標時間）、学習・教育到達目標を達成するための授業課題の流れ、各科目の学習保証時間などの情報を閲覧することが可能である。その後も、本教育プログラムが育てようとする技術者像、学習・教育到達目標、教育カリキュラムなどに関して、技術士の資格を有する技術者を外部評価委員とする外部評価を定期的に受け、継続した教育改善を実施している。

本教育プログラムでは、教育改善の一環として次のような手順を確立している。授業担当教員は、工学部 FD 委員会が実施している授業評価アンケートの集計結果を基に、『授業計画改善書』を作成する。授業担当教員は、「シラバスに記載された授業計画に沿って授業が行われたか」、「シラバスに記載された成績評価基準に沿って成績評価が行われたか」、「シラバスに記載された受講学生が達成すべき目標の教育達成度」、「科目に割り当てられた学習・教育到達目標は達成できたか」といった視点から、専門科目の学習・教育到達目標の達成度を自己評価し、その評価結果を『授業計画改善書』に反映させた上で、プログラム教育システム評価委員会に提出する。この過程で、授業評価アンケートを通して、学生の要望が反映される仕組みになっている。また、FD 委員を含むプログラム教育システム評価委員会において、受講生の合格率や成績評価分布などの分析結果、および各科目の成績評価方法について点検し、その結果をプログラム会議で報告することになっている。これらの結果より、教育上の問題点等が認められる場合には、プログラム内の各委員会で議論し、改善計画を策定している。以上の手続きによって、教育活動を点検する仕組み自体を点検する機能を実現している。

その他にも、教育活動に関する評価として、授業評価アンケートの結果に基づいて、教育貢献賞の候補者を選定している。また、FD 講演会等の活動や工学部 FD 報告書の内容も、教育活動の質的向上を図る仕組みとして活用している。令和 7 年度においても、上記の仕組みが着実に実行され、本教育プログラムの教育の点検がなされている。

4. 1. 5 化学生命工学 PG

化学生命工学科の前身である応用化学工学科応用化学コースが、平成 18 年度の審査により JABEE 認定を受け、平成 29 年度に認定継続審査を受審し、昨年度に全項目最高評価の S 評価を得て 6 年間の追加認定を受けた。JABEE に関する情報は当プログラムのホームページを通じて広く公開されており、学習・教育目標と JABEE 基準との対応、学習・教育目標を達成

するための授業課題の流れ、授業時間などの情報を閲覧することが可能になっている。また、教育改善のためのアンケート調査が、化学工学プログラムおよび同窓会との共催による講演会開催の際に既卒業・修了生を対象に1回、年度末に新卒業・修了生を対象に1回、計2回継続的に実施され、結果はプログラム会議およびプログラムホームページを通じて情報共有、公表されている。アンケート項目中の共同利用施設に対する評価結果はプログラム長名で各施設長等へ送付され、改善等の一助としてもらうとともに、プログラムと施設等との連絡網の構築を図っている。さらに、自己採点シート（全学基盤ループリック）を活用し、学生自らが自己点検を行い継続して改善する仕組みを導入している。新入生については初年度に重点的なケアが必要であるとの考えから、後期が開始される時期に全学生の面談を担当教員が行い、単位の取得状況、サークル活動やアルバイトと勉強との両立状況、進路の検討状況についてインタビューを実施、指導している。同様に、成績不調者に対しても、インタビューを実施している。これらのインタビューでは、報告の書式を学科独自に作成し、重要なインタビュー項目が欠落しないように工夫している。さらに、インタビューの結果を書面として保管し、必要に応じて、当該学生の過去のインタビュー結果を参照しながらインタビューを実施できるようにしている。これらの活動は平成26年度に工学部で新入生に対して導入されたアドバイザー制度・学生相談員制度に先んじて行ってきたものであり、これらの新制度発足後もそれらと矛盾の無いように自己採点シート（全学基盤ループリック）等を継続的に運用している。令和7年度は、これまでのノウハウも活用して、学生相談員の協力のもとWEB上でのリモート会議ツールや電子メールなどを活用して、学生の指導を行った。また、授業公開・参観についても積極的に取り組んでいる。各教員が年間1科目は必ず授業を公開し、どの科目に誰が参観するかを予め定め、全教員が必ず1回は他の教員の授業参観を受ける仕組みを導入している。また、令和2年度に試行的に行われた成績評価分布等の確認を今年度も継続して実施し、単位の認定状況に問題がないことを確認した。

以上のような取り組みを継続的に実施しているが、更なる改善を目指しプログラム内に教育プログラム改善検討委員会を設置して検討を重ねており、PDCAサイクルを構築している。

4. 2 JABEE を受審していない PG(学科) での取り組み

4. 2. 1 化学工学 PG

本PGでは平成16年度より継続してきたJABEE認定を平成26年度に終了し、これに代わる取り組みとして、平成26年度入学生より公益社団法人化学工学会の認定資格である「化学工学技士（基礎）」の取得を意識したカリキュラムを整備して、本学を試験会場とした団体受験も実施している。合格率アップに向けて演習科目を設けて対策を継続実施している。令和7年度の受験者は35名（すべて学部学生）で、合格者は10名であり合格率は29%であった。令和6年度の合格率の60%に対して大きく低下したことから講義での理解度を高める工夫を委員から教員に呼びかけた。

PG の FD 活動においては、学期末および学期中間に行われる学生授業アンケートやその結果に対する授業改善計画書の作成、FD 講演会への参加などに取り組んでいる。さらに、本 PG 教員は、原則として前期末および後期末に開催される教員間ネットワークに参加している。教員間ネットワークは開講期の直前に開催されるもので、各教員が行う講義のシラバスを公開して教員間の相互理解を深めている。また、令和 2 年度からは成績評価の分布についての点検も追加した。シラバス、授業改善計画書、試験問題および講義資料等は科目毎にファイルボックスに収納して専用の部屋に保管しており、PG 教員がいつでも閲覧できる仕組みが整備されている。

将来のカリキュラムについては年に数回のカリキュラム検討ワーキングを開催し、PG として開講科目をどの順番で実施するか、担当者などについて綿密に検討を行い、新入生に配布される履修要項の更新を毎年度行っている。

学生は毎期ごとに個人の学習達成目標の到達度を再確認・自己評価させる目的でポートフォリオを作成している。学部 1, 2 年生には年 2 回、全教員が面談員となり定期個別指導（学生面談）をアドバイザー委員の教員が企画し実施することで、学修指導ならびに生活指導を行い学生と教員との間のコミュニケーションをとっている。3 年生は後期の研究室仮配属後に研究室で面談を実施しているほか、4 年生には卒業研究の従事記録を記録させている。また、学生相談員による相談会を実施し、学修、生活について気軽に相談できる機会を設けている。

4. 2. 2 情報・生体工学 PG

令和 2 年度から先進工学科情報・生体工学プログラムとなり、1～4 年生の全学年で情報・生体工学プログラムのシラバスで教育を実施している。

情報・生体工学プログラムは、JABEE への申請は行わないことを決定しているが、その代わりにプログラム内の教科グループ WG を組織し、開講科目とカリキュラムの改善に取り組んでいる。情報・生体工学プログラムでは、教育企画委員会と、FD 推進委員会により、学科の教育改善などの FD 活動を担っている。FD 推進委員会の下には、教科グループ WG（情報基礎科目、ソフトウェア科目、工学基礎・教養科目、語学科目、実験科目）が設置されており、前期と後期の終わりに全教員による科目ワーキングを開催し、各科目の履修状況、単位取得状況、講義内容、成績評価基準などを報告し、学科の教育内容についての評価・検討を行っている。ここ数年、学生の数学の学力低下が懸念されており、工学基礎・教養科目 WG では、数学に関する授業の内容を科目間で調整している。また、ソフトウェア科目 WG でも同様に、プログラミング言語に関する講義や演習の内容を検討し、プログラミングに関する教育の充実を図っている。さらに、実験科目 WG では、実験機器の更新や内容の見直しを引き続き検討している。情報・生体工学プログラムでは、授業計画改善書を教員間で互いに閲覧し、各教科グループ WG で積極的に活用できるように学科事務室に保管・管理している。また、1 年生には、高校における数学・理科の詳細な履修状況、志望動機、進路希望などを

調査する新入生アンケートを実施して、学生への指導の参考にするとともに、カリキュラム改善に役立っている。

第5章 GPA 制度の現状と学習成果

5.1 年間 GPA の推移

図 5.1 には、工学部全学生の入学年度別に見た年間 GPA 平均の推移を示している。また、それ以降に GPA の変動要因と考えられる社会的動向や教務関連事項をまとめている。なお、データの制約により、年間 GPA 平均は GPA が 1.5 以上の学生を対象に算出しており、4 年目は取得単位数が少ないため比較の対象外としている。

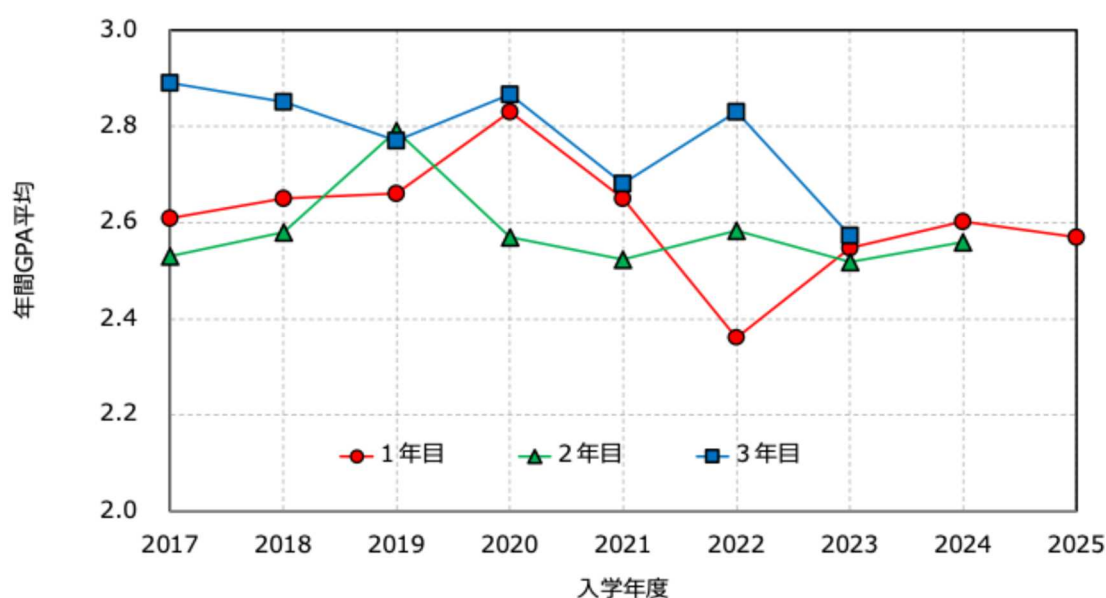


図 5.1 入学年度による年間 GPA 平均の推移

【年間 GPA 平均の変動要因】

2016 共通教育改革

- ・初年次セミナーI, II, 英語の改革, 異文化理解の新設
- ・基礎教育科目(微積分学, 基礎物理学)を工学部での開講

2020 新型コロナウイルス感染症の拡大：遠隔講義の増加

工学部改組

- ・工学概論と共通クラス向け工学分野実験・演習を新設

2021 新型コロナウイルス感染症：遠隔講義と対面講義が混在

**2022 新型コロナウイルス感染症：遠隔講義と対面講義が混在
成績評価基準の変更**

- ・ A 判定の割合を約 20%とする

2023 新型コロナウイルス感染症の分類 5 種へ：全面対面講義

2016（平成 28）年度の共通教育改革以降，2020 年度までの年間 GPA 平均は，2019 年度の一部例外（2 年目が 1 年目を上回る）を除き，3 年目 > 1 年目 > 2 年目という傾向が安定して見られた．2 年目での GPA 低下は，大学生活に慣れたことによる学習意欲の低下が一因と考えられる．2019 年度に限って 2 年目の平均が高くなったのは，同年 12 月以降に急速に拡大した新型コロナウイルス感染症によって教育環境が変化し，遠隔講義の導入や，従来の対面授業との評価基準のぶれなどにより GPA の値に影響が生じたためと推察される．

この安定した傾向は，2021 年度に大きく崩れる．特に 1 年目における GPA の顕著な低下は，遠隔講義の拡大によって学生の学習パターンが変化し，学習機会が減少したことが原因とみられる．一方で，2・3 年目の学生については，2021 年度には一時的に GPA が低下したものの，その後は回復傾向を示していることから，新型コロナウイルス感染症が特に初年次教育に与えた影響が大きかったことがうかがえる．

2021 年度の 1 年目 GPA の下落以降，2023～2024 年度には回復傾向が見られ，対面講義の再開とともに教育体制が安定してきたことを示している．感染症が沈静化した 2023 年度以降，年間 GPA は徐々に 2016～2020 年度の傾向に近づきつつある．

従来から見られる 2 年目での GPA 低下は，今後の教育改善における重要な課題である．2 年次では受講科目の大半が専門科目となり，実験や演習に伴うレポート課題が増加することに加え，求められる学習量も大幅に増える．このため，GPA の低下はある程度避けがたいが，1 年目の工学系基礎教育において，専門科目に備えた基礎力を充実させることで，2 年目の GPA 低下を緩和できる可能性がある．

このように，新型コロナウイルス感染症の影響を受けて年間 GPA は大きく変動したが，2024 年度にはその影響から脱しつつある．近年は GPA に影響を与える大きな教務上の変更も少ないことから，今後の年間 GPA の推移を丁寧に観察することで，教育改善に向けた示唆が得られると期待される．2025 年度は，1・2 年次の GPA は前年からほぼ横ばいであるが，3 年次が大きく低下している．現時点でこの現象の理由や原因は断定できないが，継続して観察する必要がある．

5. 2 年間修得単位数の推移

鹿児島大学工学部では、確定 GPA が 1.5 以上の学生の年間修得単位数の平均値が、各学年ごとにデータベース化されている。データが欠落している年度もあるが、図 5.2 に、過去のデータに令和 7（2025）年 3 月のデータを追加して示す。

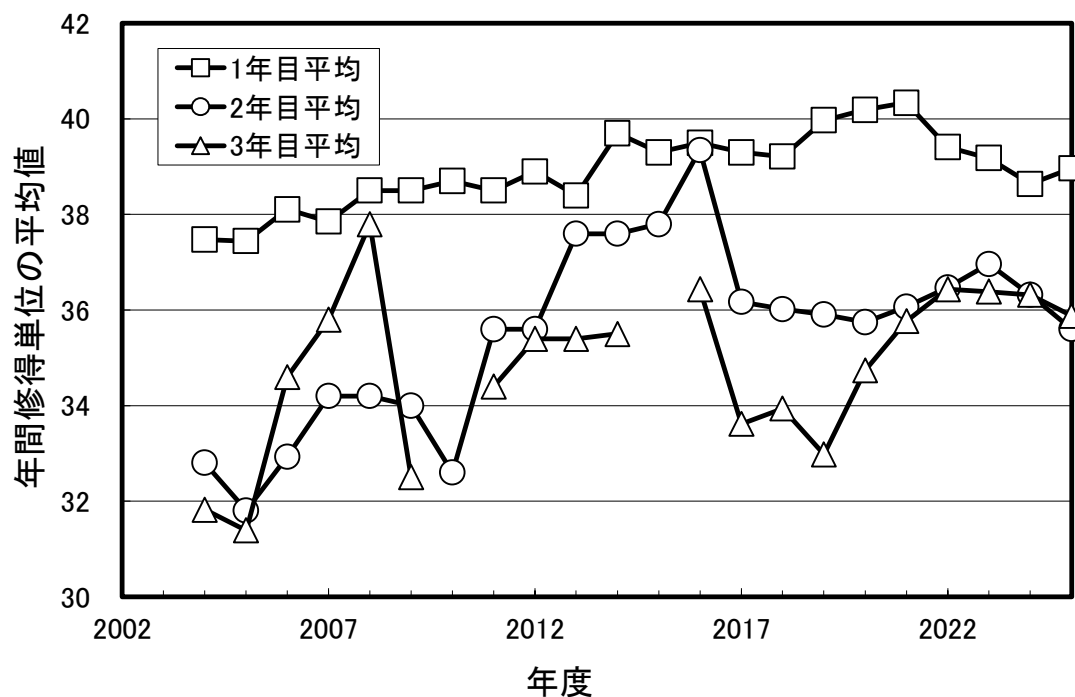


図 5.2 学年別年間修得平均単位数の年度による相違

既に過去の FD 報告書で一定の分析がなされているが、過去 22 年間の全体的な傾向を見ると、1 年次の修得単位数は 38～40 単位と比較的安定しているのに対し、専門教育へ移行する 2、3 年次では、年度によって修得単位数に大きな変動が見られる（最大値と最小値の差は、2 年次で 7.5 単位、3 年次で 6.4 単位である）。ここ 2～3 年程度を見ると、2、3 年次の年間修得単位数は減少傾向にあるものの、短期的に極端な変化は見られない。ただし、図 5-2 のように短期的に修得単位が急減することも想定されることから、年ごとの学生の特性の違いを考慮した教育の実施が必要だと言える。

5. 3 卒業者数と卒業延期者数の割合の推移

図5.3には、卒業者数と卒業延期者数の合計に対する卒業者数の占める割合を示す。平成15（2003）年度から、令和7（2025）年度までの経年変化を示している。

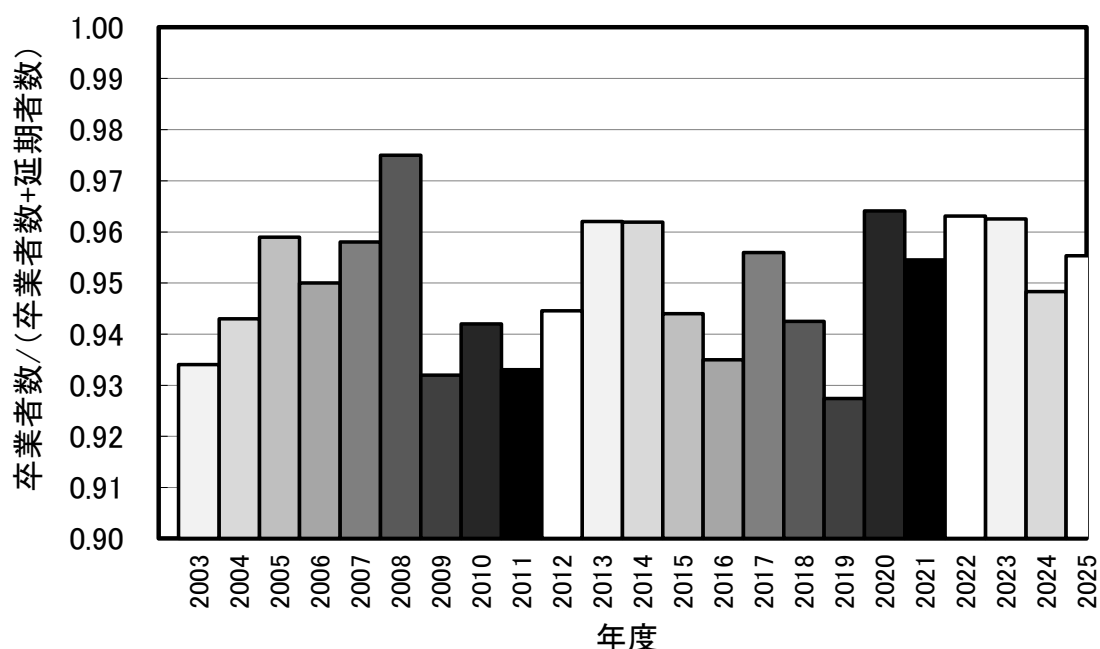


図5.3 卒業者数と卒業延期者数の合計に対する卒業者数の占める割合の経年変化

統計を取り始めた平成14（2002）年度～平成24（2012）年度のトレンドの分析は、昨年度のFD報告書にまとめられているので、そちらを参照されたい。直近5年程度に絞った傾向を見ると、大きな変動はなく95%程度の4年生が卒業、5%程度（20名程度）の学生が卒業を延期している。卒業延期の理由の一つとして単位不足が挙げられるが、4年生になっても卒業を延期せざるを得ないことがあることを学生に周知し、油断せず授業に臨むように指導する必要があると思われる。

5. 4 学習成果と質の向上

昨年度に引き続き、これまで蓄積されてきた講義・演習科目の授業評価アンケートから、学生の学習の質と関連があると考えられる「⑤理解」、「⑧学習目標の達成」、「⑮予習・復習の時間」及び「⑯満足度」の4項目に、令和2（2020）年度から新たに追加された「④難易度」を加えた5項目に着目し、これらとGPAの科目平均値の関係を調べ、学習成果と質の向上に関して検討する。

5. 4. 1 学習成果と質の向上の経年変化

平成16（2004）年度～令和7（2025）年度における、講義・演習科目の授業評価アンケートのうち、「⑤理解」、「⑧目標達成」、「⑮予習・復習の時間」及び「⑯満足度」の4項目と

令和 2 (2020) 年度から追加された「④難易度」の各評価の工学部平均値と、GP の科目毎の平均値 (科目 GPA) の工学部平均値の推移を図 5. 4. 1 に示す。「④難易度」の評価の工学部平均値は、「⑧学習目標の達成」の評価とほぼ同一の値となっている。令和 7 (2025) 年度の「④難易度」、「⑤理解」、「⑧学習目標の達成」、「⑯満足度」の評価の工学部平均値は、令和 6 (2024) 年度から横ばいであり引続き高い水準を維持している。これらの 4 項目は変化傾向が類似している。一方、「⑮予習・復習の時間」は、平成 23 (2011) 年度に一度低下したものの、平成 17 (2005) 年度～平成 29 (2017) 年度では緩やかな上昇傾向であったが、令和 2 (2020) 年以降は低下傾向にある。令和 7 (2025) 年度は、0.07 ポイント低下して平成 19 (2007) 年度より低下している。なお、平成 29 (2017) 年度～令和 2 (2020) 年度に大きな変動がみられるが、これはアンケートの実施方法を LMS (manaba) 内での WEB アンケートに変更した後にみられ、さらに遠隔授業が導入された令和元 (2019) 年度に大きく低下した。このことから、manaba の導入によるアンケート回答率の低下や授業実施形態の変化の影響と考えられる。

科目 GPA については、令和 3 (2021) 年に低下したが、令和 5 (2023) 年には増加に転じ、令和 7 (2025) 年度は、前年度より 0.01 ポイント増加しており、わずかであるが上昇傾向となっている。このような年度ごとの値の変動はあるものの、近年の科目 GPA の値は、平成 29 (2017) 以前の科目 GPA の水準と比べてやや高い値を示している。令和 7 (2025) 年度は、「④難易度」、「⑤理解」、「⑧学習目標の達成」、「⑮予習・復習の時間」、「⑯満足度」の全てで 0.1 ポイント未満の増減で横ばいの傾向であり、科目 GPA の評価の工学部平均値は同じように横ばいの傾向である。「⑮予習・復習の時間」の減少傾向が続いていることから、多様な入試で入学した学力差のある学生に対して、授業時間外学習を促すためのより一層の工夫により、授業内容の理解を深めて学生の成績 (GPA) 向上につなげる必要がある。

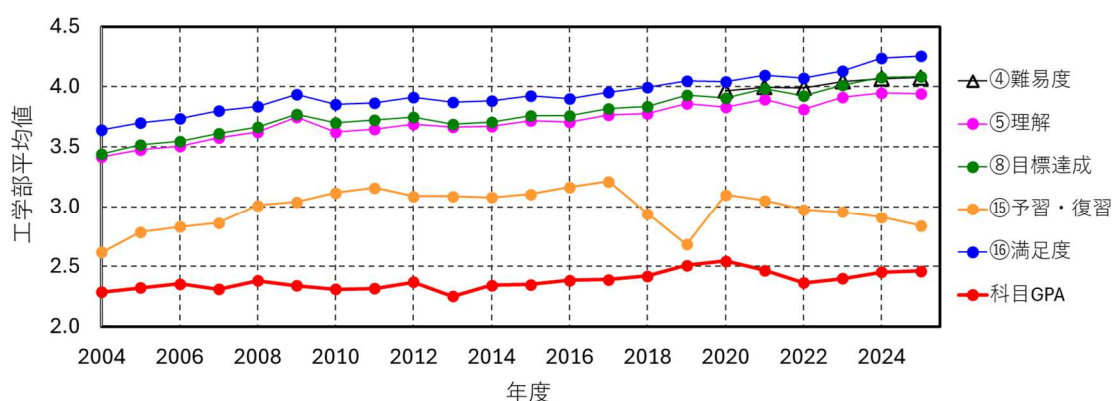


図 5. 4. 1 授業評価アンケートのうちの 4 項目の評価及び科目 GPA の工学部平均値の推移

5. 4. 2 令和7年度の学習成果と質の向上

令和7(2025)年度の科目GPAと授業評価アンケートの「④難易度」,「⑤理解」,「⑧学習目標の達成」,「⑮予習・復習の時間」及び「⑯満足度」の科目平均の相関関係を図5.4.2(1)に示す. 図中の R^2 は, 相関係数の2乗である決定係数である. 科目GPAと「④難易度」,「⑤理解」,「⑧学習目標の達成」,「⑮予習・復習の時間」,「⑯満足度」の相関係数は, それぞれ, $-0.27, 0.31, 0.29, 0.01, 0.24$ であり, 「⑤理解」, 「⑧学習目標の達成」, 「⑯満足度」の3項目は, 正の値で弱い相関関係があると考えられるが, 「④難易度」については, 負の弱い相関関係があると考えられる. 一方, 「⑮予習・復習」については, 科目GPAとの相関関係がないと考えられる.

令和7(2025)年度の授業評価アンケートの「⑤理解」の科目平均と「⑧学習目標の達成」及び「⑯満足度」の科目平均の相関関係を図5.4.2(2)に示す. 「⑤理解」と「⑧学習目標の達成」及び「⑯満足度」の相関係数は, それぞれ, $0.84, 0.75$ であり, これらの2項目は, 「⑤理解」と正の相関関係があると考えられる.

令和7(2025)年度の授業評価アンケートの「④難易度」の科目平均と「⑤理解」及び「⑮予習・復習」の科目平均の相関関係を図5.4.2(3)に示す. 「④難易度」と「⑤理解」及び「⑮予習・復習」の相関係数は, それぞれ, $-0.45, 0.30$ であり, 「⑤理解」と負の弱い相関関係があるが, 「⑮予習・復習」とは, 正の弱い相関関係があると考えられる.

以上の分析により, 授業評価アンケートの「⑤理解」の科目平均が高いほど, 科目GPAも高まる傾向がみられる一方で, 「④難易度」の科目平均が高いほど, 科目GPAが低下する傾向がみられる. 「⑭予習・復習の時間」の科目平均については, ばらつきが大きく科目GPAとの相関関係がなく, 授業評価アンケートの「④難易度」の科目平均が高くなるほど「⑭予習・復習の時間」の科目平均が高くなるが, 科目GPAが低下する傾向がみられる. 学習成果と質を向上させるためには, 授業毎に取り扱う内容の難易度を適切な水準に維持しながら, 学生の幅広い学力に対応した授業の改善策を講じる必要がある.

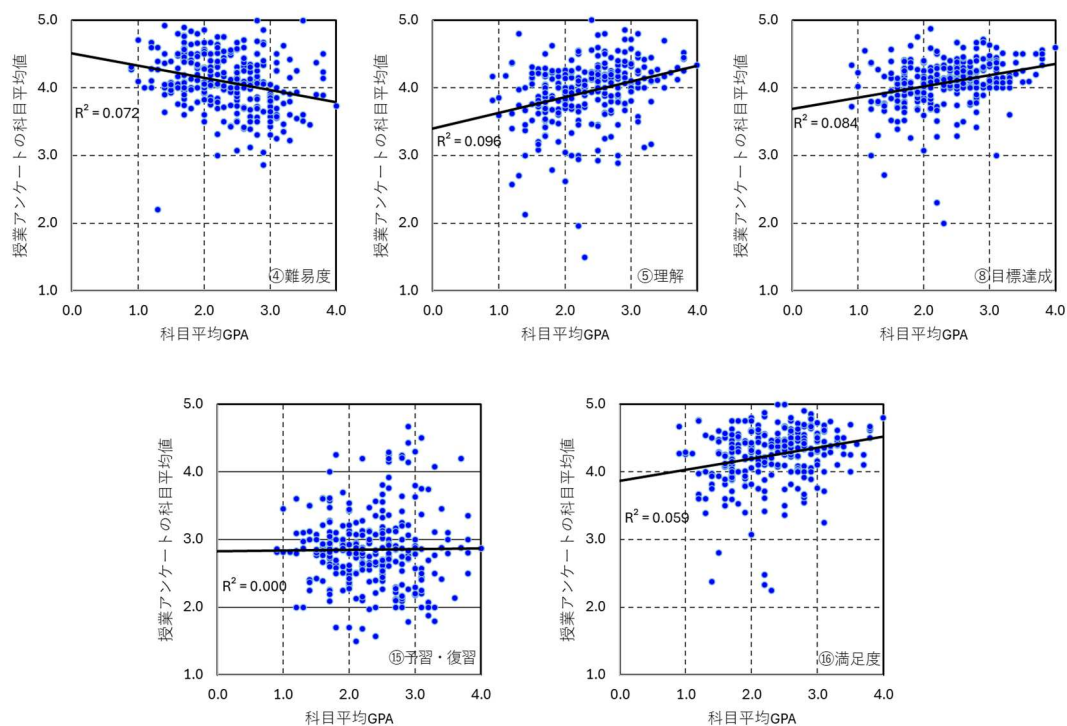


図 5. 4. 2 (1) 令和 7 年度の科目 GPA と授業評価アンケートの科目平均の相関

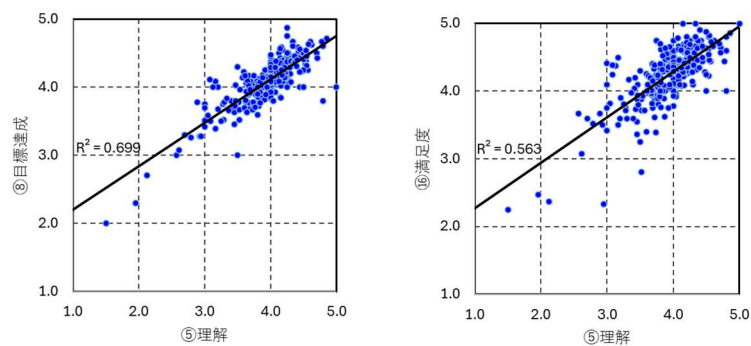


図 5. 4. 2 (2) 令和 7 年度の授業評価アンケートの⑤理解に対する相関

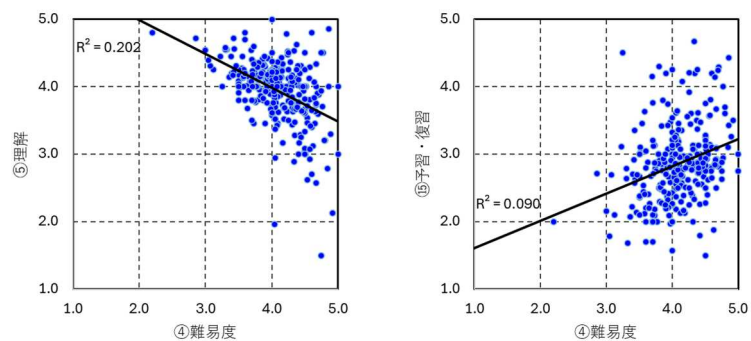


図 5. 4. 2 (3) 令和 7 年度の授業評価アンケートの④難易度に対する相関

第6章 特筆すべき取り組みや改善事例

・授業関係

各プログラムにおいて、前期・後期の授業科目を対象に、成績評価が適正に行われているかの点検を継続的に実施するとともに、各教員が作成する授業計画改善書に当該科目の成績評価分布を記載した。各プログラムのFD委員は、プログラム教員から提出された授業計画改善書を取りまとめ、成績評価分布一覧表に基づき授業評価の点検を行った。本取組はJABEE認定にも活用されており、今後も継続して実施する予定である。

また、今年度も100件以上の授業を参観希望者に公開するとともに、工学部独自のエクセレント・レクチャラー賞の選定および表彰を行った。これらの取組に関する情報はWeb上で公開し可視化しており、教育改善に資する機会となっている。

・ピアサポート企画

近年、メンタル面で不調を抱える教職員および学生が増加しており、対応の難しさから休職・休学や退学に至る事例も見受けられる。このような状況を踏まえ、令和7年度は専門コンサルタントによる相談会を学部長主導で企画し、10月に試行的に実施した。初回であったため相談者数は多くはなかったものの、本企画の有用性が確認されたことから、令和8年度以降はFD関連企画として位置づけることを視野に検討を進めている。

第7章 令和7年度の工学部FD活動の総括と今後のFD活動

7.1 令和7年度の工学部FD活動の総括

令和7年度第1回工学部FD委員会において、冒頭で述べた6項目のFD活動を継続して実施することが決定され、すべての活動が計画どおり実施された。授業評価アンケートの各項目の評点は概ね良好である。一方で、予習・復習に関する項目の評点は全体的に低く、改善の余地が認められることから、近年の学生の傾向も踏まえた対応策について検討を進める必要がある。他方、実験科目については引き続き高い評価を維持している。これらは、各教員による教育の質向上に向けた取組の成果であると考えられる。

また、毎年度、各部局において全専任教員の75%以上がFD活動に参加することが求められている。令和7年度に工学部または理工学研究科主催・共催および学内で実施されたFD関連企画への参加状況を表7.1に示す。いずれかの活動に参加した教員は101名中93名であり、参加率は93.1%と高い水準を維持している。一方で、FD講演会については、12月12日実施分が他部局主催かつ金曜日開催であったこと、また12月17日実施分がオンデマンド形式であったことなどから参加率が低く、周知方法を含めた運営面に課題が残された。今後も活発なFD活動を通じて、工学部における教育のさらなる充実が期待される。

表 7.1 令和 7 年度専任教員の FD 活動参加の状況

合計参加率		93.1 % (専任教員 101 名中 94 名 参加)					
企画別 参加率	理工系研究科・工学部・理学部・共通教育センター合同FD講演会(10.15)	74.3	%	(専任教員	101 名中	75 名 参加)	
	理工系研究科・工学部・理学部合同FD講演会(11.19)	80.2	%	(専任教員	101 名中	81 名 参加)	
	共通教育センター・理工学研究科合同FD講演会(12.12)	8.9	%	(専任教員	101 名中	9 名 参加)	
	理学部・理工学研究科共催FD講演会(12.17)	14.9	%	(専任教員	101 名中	15 名 参加)	
	FD・SD 合同フォーラム	1.0	%	(専任教員	101 名中	1 名 参加)	
	FD・SD 講演会	2.0	%	(専任教員	101 名中	2 名 参加)	
	前期授業計画改善書	53.5	%	(専任教員	101 名中	54 名 参加)	
	後期授業計画改善書	48.5	%	(専任教員	101 名中	49 名 参加)	
	前期授業参観報告書	10.9	%	(専任教員	101 名中	11 名 参加)	
	後期授業参観報告書	5.9	%	(専任教員	101 名中	6 名 参加)	

7. 2 今後の FD 活動

工学部では、平成 16 年度より授業アンケートを実施し、各教員による授業改善の取組を推進してきた。また、平成 28 年度からはエクセレント・レクチャラー表彰を導入し、各教員の改善成果を学外にも可視化している。授業の質の向上は、学生への教育効果のみならず、学生および保証人の大学に対する満足度の向上にも寄与することから、今後も継続的な改善が求められる。

さらに、COVID-19 の影響下で導入が進んだオンデマンド授業に加え、生成 AI をはじめとする最新技術への対応も不可欠となっている。このため、教員の知識および教育技術の向上に向けた取組を引き続き推進する必要がある。今後も、適切な講師を招聘した講演会等を継続的に実施していく予定である。

加えて、学生および教職員のメンタル面への支援の重要性も高まっていることから、専門家による相談会の企画等を通じて対応を進めていく。

プレビュー

令和7年度前期 中間授業アンケート	
公開/非公開	非公開
受付期間	2025-05-22 08:50 ~ 2025-06-06 23:59

※アンケート集計シートに表示される問題番号を赤の太字で表示しています（例: **1.1**）。

設問1

この授業で改善してもらいたいところがあれば、選択して下さい。（複数可）**(選択必須)**

1.1

☐

説明が分かりにくい

☐

字や図表が見にくい(黒板)

☐

字や図表が見にくい(OHP)

☐

字や図表が見にくい(パワーポイント)

☐

授業の速度が速い

☐

授業の速度が遅い

☐

課題が多すぎる

☐

課題が少ない

☐

なし

設問2

これまでの授業で、よく理解できなかった内容を記載して下さい。**(入力必須)**

1.2

設問3

これまでの授業で、よく理解できた内容を記載して下さい。**(入力必須)**

1.3

設問4

その他改善を希望する点があれば自由に記載して下さい。（ない場合は回答不要）

1.4

閉じる

令和7年度工学部 前期授業公開科目表

授業公開期間：6月16日(月)～7月11日(金) ※一部、8月の夏季集中講義有り。

【参観希望の方へ】

授業担当者に e-mail で事前にご連絡下さい。当日参観の場合でも、授業開始前までをお願いします。

※下記表の「3日前までに連絡が必要」が○の科目は、授業の3日前までにご連絡下さい。

※情報・生体工学プログラムは、今期は実施いたしません。

【授業参観後のお願い】

参観者は、授業担当者へ「授業参観報告書」の提出をお願いします。

【機械工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合：教室名 遠隔の場合：方法	連絡先 (メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
6	17	火	14:30～16:00	熱機関	木下 英二	対面	機械工学1号棟 11講義室	kinoshit@mech.kagoshima-u.ac.jp	○
6	18	水	8:50～10:20	工業力学II及び演習A&B	松崎 健一郎	対面	機械工学1号棟 11講義室	matsuzaki@mech.kagoshima-u.ac.jp	○
7	4	金	14:30～16:00	材料力学基礎及び演習A&B	佐藤 絃一	対面	機械工学1号棟 11講義室	ksato@mech.kagoshima-u.ac.jp	○

【電気電子工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合：教室名 遠隔の場合：方法	連絡先 (メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
6	11	水	8:50～10:20	応用数学I及び演習	渡邊 俊夫	対面	工学部共通棟 201講義室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
6	12	木	10:30～12:00	光通信工学	渡邊 俊夫	対面	電気電子工学棟 23講義室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
6	16	月	8:50～10:20	電気磁気学IIおよび演習	堀江雄二	対面	建築学棟 01教室	horie@eee.kagoshima-u.ac.jp	○
6	18	水	8:50～10:20	応用数学I及び演習	渡邊 俊夫	対面	工学部共通棟 201講義室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
6	16	月	12:50～14:20	システム工学	福島 誠治	対面	電気電子工学棟 23講義室	fukushima@eee.kagoshima-u.ac.jp	○
6	19	木	8:50～10:20	電気エネルギー工学Ⅱ	川畑 秋馬	対面	工学部共通棟 201講義室	kawabata@eee.kagoshima-u.ac.jp	○
6	19	木	10:30～12:00	光通信工学	渡邊 俊夫	対面	電気電子工学棟 23講義室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
6	25	水	8:50～10:20	応用数学I及び演習	渡邊 俊夫	対面	工学部共通棟 201講義室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
6	26	木	10:30～12:00	光通信工学	渡邊 俊夫	対面	電気電子工学棟 23講義室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
7	4	金	14:30～16:00	デジタル電子回路	大島 賢一	対面	建築学棟 01教室	k-ohhata@eee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	9	水	8:50～10:20	応用数学I及び演習	渡邊 俊夫	対面	工学部共通棟 201講義室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
7	10	木	10:30～12:00	光通信工学	渡邊 俊夫	対面	電気電子工学棟 23講義室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	

【海洋土木工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合：教室名 遠隔の場合：方法	連絡先 (メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
6	20	金	12:50～14:30	環境汚染制御	安達 貴浩	対面	工学部共通棟 303講義室	t-adachi@oce.kagoshima-u.ac.jp	○
6	20	金	16:10～17:40	沿岸環境学	安達 貴浩	対面	工学部共通棟 201講義室	t-adachi@oce.kagoshima-u.ac.jp	○
6	23	月	8:50～10:20	コンクリート構造設計学および演習	山口 明伸	対面	工学部共通棟 303講義室	yamaguch@oce.kagoshima-u.ac.jp	
6	24	火	12:50～14:30	海洋建設工学実験I	田上 聖人	対面	海士棟1階 共用実験室	taue@oce.kagoshima-u.ac.jp	
6	25	水	16:10～17:40	海洋土木専門英語II	齋田 倫範	遠隔	zoom	saita@oce.kagoshima-u.ac.jp	○
6	26	水	16:10～17:40	水理学I	安達 貴浩	対面	工学部共通棟 201講義室	t-adachi@oce.kagoshima-u.ac.jp	○
6	30	月	8:50～10:20	コンクリート構造設計学および演習	山口 明伸	対面	工学部共通棟 303講義室	yamaguch@oce.kagoshima-u.ac.jp	
7	3	木	8:50～10:20	土質力学II	酒匂 一成	対面	工学部共通棟 303講義室	sako@oce.kagoshima-u.ac.jp	
7	7	月	8:50～10:20	コンクリート構造設計学および演習	山口 明伸	対面	工学部共通棟 303講義室	yamaguch@oce.kagoshima-u.ac.jp	
7	7	月	12:50～14:20	流域保全工学	齋田 倫範	対面	工学系講義棟 111講義室	saita@oce.kagoshima-u.ac.jp	○
8	6	水	13:00～15:00	海洋土木デザイン工学	山口 明伸	対面	海洋土木工学棟 AL室	yamaguch@oce.kagoshima-u.ac.jp	※夏期集中講義

【化学工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合：教室名 遠隔の場合：方法	連絡先 (メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
6	16	月	8:50～10:20	反応工学	田巻 孝敬	対面	工学部共通棟 202講義室	tamaki@cen.kagoshima-u.ac.jp	
6	17	火	14:30～16:00	分離工学	二井 晋	対面	工学部講義棟 121講義室	niisus@cen.kagoshima-u.ac.jp	
6	18	水	10:30～12:00	無機化学	穀島宗一郎	対面	工学部講義棟 121講義室	samesima@cen.kagoshima-u.ac.jp	
6	20	金	8:50～10:20	化学工学プログラミング	水田 敬	対面	情報基盤統括センター 2nd端末室	k2088286@kadai.jp	
6	23	月	14:30～16:00	基礎物理化学	武井孝行	対面	工学部講義棟 131講義室	takei@cen.kagoshima-u.ac.jp	
6	25	水	8:50～10:20	化工熱力学	武井孝行	対面	工学部講義棟 121講義室	takei@cen.kagoshima-u.ac.jp	
7	7	月	10:30～12:00	機器分析基礎	吉田昌弘	対面	工学部共通棟 301講義室	myoshida@cen.kagoshima-u.ac.jp	○

【化学生命工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合：教室名 遠隔の場合：方法	連絡先 (メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
6	17	火	10:30～12:00	有機化学I	松本 健司	対面	工学部講義棟 131講義室	kmatsumoto@cb.kagoshima-u.ac.jp	○
6	17	火	12:50～14:20	界面科学	金子 芳郎	対面	工学部共通棟 301講義室	ykaneko@eng.kagoshima-u.ac.jp	○
6	27	金	10:30～12:00	分析化学(化生)	吉留 俊史	対面	工学部講義棟 121講義室	tome@cb.kagoshima-u.ac.jp	
7	1	火	8:50～10:20	基礎化学	中島 常恵	対面	工学部共通棟 301講義室	tsune@cb.kagoshima-u.ac.jp	○
7	4	金	16:10～17:40	分子生物学	横口 周平	対面	工学部講義棟 131講義室	hashiguchi-s@cb.kagoshima-u.ac.jp	○
7	8	火	8:50～10:20	高分子化学	門川淳一	対面	工学部講義棟 131講義室	kadokawa@eng.kagoshima-u.ac.jp	○
7	8	火	14:30～16:00	有機化学III	若尾 雅広	対面	工学部講義棟 131講義室	wakao@eng.kagoshima-u.ac.jp	○
7	9	水	8:50～10:20	生物化学I	新地 浩之	対面	工学部講義棟 111講義室	hshinchi@eng.kagoshima-u.ac.jp	○

【建築学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合：教室名 遠隔の場合：方法	連絡先 (メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
6	30	月	8:50～10:20	建築施工	黒川 善幸	対面	工学部共通棟 302講義室	kurokawa@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
6	30	月	10:30～12:00	建築材料の科学	黒川 善幸	対面	工学部共通棟 302講義室	kurokawa@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	1	火	8:50～10:20	建築構法	鷹野 敬	対面	工学部共通棟 302講義室	takano@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	1	火	10:30～12:00	設備計画I	二宮 秀典	対面	工学部共通棟 302講義室	nimiya@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	1	火	12:50～14:20	構造力学I(建)	塩屋 晋一	対面	建築学棟 01教室	shin@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	1	火	12:50～14:20	建築計画基礎演習	小山 雄資	対面	建築学棟 アクティブラーニングルーム	koyama@aee.kagoshima-u.ac.jp	
7	2	水	8:50～10:20	建築の数理・情報	横須賀 洋平	対面	建築学棟 01教室	yokosuka@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	2	水	10:30～12:00	人間行動と建築空間	柴田 晃宏	対面	工学部共通棟 302講義室	shibata@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	3	木	8:50～10:20	地域環境の歴史	木方 十根	対面	工学部共通棟 302講義室	kikata@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	3	木	8:50～10:20	環境計画I(建)	曾我 和弘	対面	建築学棟 01教室	soga@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	3	木	10:30～12:00	環境工学II	曾我 和弘	対面	工学部共通棟 302講義室	soga@aee.kagoshima-u.ac.jp	○
7	4	金	10:30～12:00	英語V	小山 雄資	対面	建築学棟 01教室	bcauser@eng.kagoshima-u.ac.jp	○
7	4	金	16:10～17:40	建築振動	横須賀 洋平	対面	工学部共通棟 302講義室	yokosuka@aee.kagoshima-u.ac.jp	○

令和7年度工学部 後期授業公開科目表

授業公開期間：11月19日(水)～12月19日(金)

【参観希望の方へ】

授業担当者に e-mail で事前にご連絡下さい。当日参観の場合でも、授業開始前までをお願いします。
※下記表の「3日前までに連絡が必要」が○の科目は、授業の3日前までにご連絡下さい。

【授業参観後のお願い】

参観者は、授業担当者へ「授業参観報告書」の提出をお願いします。

【機械工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合:教室名 遠隔の場合:方法	連絡先(メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
12	8	月	10:30～12:00	伝熱工学	洪 定杓	対面	工学系講義棟 111号講義室	hong@mech.kagoshima-u.ac.jp	○
12	8	月	10:30～12:00	応用数学II及び演習A&B	片野田 洋	対面	機械工学1号棟 11講義室	katanoda@mech.kagoshima-u.ac.jp	○
12	8	月	12:50～14:20	機械材料学基礎	小金丸 正明	対面	機械工学1号棟 11講義室	koganemaru@mech.kagoshima-u.ac.jp	○
12	9	火	16:10～17:40	線形代数学II	大高 武士	対面	機械工学1号棟 13講義室	ohtaka@mech.kagoshima-u.ac.jp	○
12	11	木	12:50～14:20	流体力学基礎及び演習A&B	大高 武士	対面	機械工学1号棟 11講義室	ohtaka@mech.kagoshima-u.ac.jp	○
12	12	金	10:30～12:00	機械制御工学	熊澤 典良	対面	工学系講義棟 121号講義室	kumazawa@mech.kagoshima-u.ac.jp	○

【電気電子工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合:教室名 遠隔の場合:方法	連絡先(メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
11	20	木	12:50～14:20	電気磁気学I及び演習	野見山 輝明	対面	建築学棟2号館 01教室	teru@eee.kagoshima-u.ac.jp	
12	1	月	14:30～16:00	プログラム基礎と演習	渡邊 俊夫	対面	情報基盤統括センター第2端末室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
12	4	木	10:30～12:00	高電圧・プラズマ工学	甲斐 祐一郎	対面	電気電子工学棟 23講義室	ykai@eee.kagoshima-u.ac.jp	
12	4	木	12:50～14:20	電気磁気学I及び演習	野見山 輝明	対面	建築学棟2号館 01教室	teru@eee.kagoshima-u.ac.jp	
12	4	木	14:30～16:00	電子物性基礎	青野 祐美	対面	建築学棟2号館 01教室	aono@eee.kagoshima-u.ac.jp	○
12	8	月	10:30～12:00	システム制御工学	八野 知博	対面	工学部共通棟 201講義室	hachino@eee.kagoshima-u.ac.jp	○
12	8	月	14:30～16:00	プログラム基礎と演習	渡邊 俊夫	対面	情報基盤統括センター第2端末室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
12	8	月	14:30～16:00	パワーエレクトロニクス	山本 吉朗	対面	電気電子工学棟 23講義室	yamamoto@eee.kagoshima-u.ac.jp	
12	15	月	14:30～16:00	プログラム基礎と演習	渡邊 俊夫	対面	情報基盤統括センター第2端末室	wata104@eee.kagoshima-u.ac.jp	
12	16	火	10:30～12:00	電子材料工学	前島 圭剛	対面	電気電子工学棟 23講義室	maejima@eee.kagoshima-u.ac.jp	○

【海洋土木工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合:教室名 遠隔の場合:方法	連絡先(メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
11	20	木	16:00～17:40	海洋学総論	加古 真一郎	対面	工学部共通棟 303講義室	kako@oce.kagoshima-u.ac.jp	
11	26	水	16:10～17:40	微分積分学II	安達 貴浩	対面	工学系講義棟 131号講義室	t-adachi@oce.kagoshima-u.ac.jp	○
12	1	月	8:50～10:20	土木計画学	酒匂 一成	対面	工学部共通棟 303講義室	sako@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	1	月	10:30～12:00	測量学(海)	酒匂 一成	対面	工学部共通棟 303講義室	sako@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	1	月	12:50～16:00	測量実習(海)	長山 昭夫	対面	海洋土木工学棟 AL室	nagayama@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	2	火	10:30～12:00	耐震工学	木村 至伸	対面	工学部共通棟 303講義室	y-kimura@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	4	木	10:30～12:00	土質力学I(海)	酒匂 一成	対面	工学部共通棟 303講義室	sako@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	4	木	12:50～14:20	海岸防災工学	柿沼 太郎	対面	工学部共通棟 303講義室	taro@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	5	金	10:30～12:00	土質力学演習(海)	酒匂 一成	対面	工学部共通棟 303講義室	sako@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	5	金	12:50～15:30	海洋建設工学実験II	木村 至伸	対面	海洋土木工学棟 AL室	y-kimura@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	5	金	16:10～17:40	建設マネジメント	酒匂 一成	対面	工学部共通棟 303講義室	sako@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	12	金	10:30～12:00	海洋物理環境学	加古 真一郎	対面	工学系講義棟 111号講義室	kako@oce.kagoshima-u.ac.jp	
12	18	木	14:30～16:00	海洋物理環境学演習	加古 真一郎	対面	基盤センター第一端末室	kako@oce.kagoshima-u.ac.jp	

【化学工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合:教室名 遠隔の場合:方法	連絡先(メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
11	25	火	8:50～10:20	移動現象 I	水田 敬	対面	工学部共通棟 201講義室	kmizuta@cen.kagoshima-u.ac.jp	
12	1	月	16:10～17:40	微分積分学 II	水田 敬	対面	工学系講義棟 121号講義室	kmizuta@cen.kagoshima-u.ac.jp	
12	8	月	8:50～10:20	反応速度論	田巻 孝敬	対面	工学系講義棟 111号講義室	tamaki@cen.kagoshima-u.ac.jp	
12	8	月	14:30～16:00	移動現象 II	二井 晋	対面	工学系講義棟 111号講義室	niisus@cen.kagoshima-u.ac.jp	
12	9	火	14:30～16:00	線形代数学 II	五島 崇	対面	工学系講義棟 111号講義室	tgoshima@cen.kagoshima-u.ac.jp	

【化学生命工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合:教室名 遠隔の場合:方法	連絡先(メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
11	25	火	8:50～10:20	化学生命プログラミング	満塩 勝	対面	情報基盤統括センター 第2端末室	mitsushie@cb.kagoshima-u.ac.jp	○
11	25	火	14:30～16:00	量子化学(化生)	石川 岳志	対面	化学生命工学棟 AL室	ishi@cb.kagoshima-u.ac.jp	○
12	1	月	10:30～12:00	数理・データサイエンス基礎	上田 岳彦	対面	工学系講義棟 131号講義室	k1530601@kadai.jp	○
12	2	火	10:30～12:00	環境化学	高梨 啓和	対面	化学生命工学棟 AL室	takanashi@cb.kagoshima-u.ac.jp	○
12	8	月	10:30～12:00	生物化学II	橋本 雅仁	対面	工学系講義棟 121号講義室	hassy@eng.kagoshima-u.ac.jp	○

【情報・生体工学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合:教室名 遠隔の場合:方法	連絡先(メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
11	20	木	16:10～17:40	プログラミング言語Ⅱ及び演習	福元 伸也	対面	情報・生体工学棟 電算機演習室	fukumoto@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
11	25	火	08:50～10:20	物理学基礎Ⅱ	西村 方孝	対面	情報・生体工学棟 71号講義室	nishimura@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
11	25	火	12:50～14:20	計算機工学(情)	大橋 勝文	対面	情報・生体工学棟 71号講義室	mohashi@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	1	月	12:50～14:20	生体情報工学	王 鋼	対面	工学部共通棟 201講義室	gwang@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	8	月	12:50～14:20	応用数学Ⅰ	岡村 純也	対面	情報・生体工学棟 71号講義室	jokamura@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	9	火	10:30～12:00	応用数学Ⅰ 演習	山下和香代	対面	情報・生体工学棟 71号講義室	wyamashita@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	11	木	10:00～11:00	プログラミング言語Ⅳ及び演習	小野 智司	対面	情報・生体工学棟 71号講義室	ono@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	15	月	10:30～12:00	メディア処理	高橋 哲朗	対面	情報・生体工学棟 電算機演習室	takahashi@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	15	月	8:50～10:20	プログラミング序論演習	重井 徳貴	対面	情報・生体工学棟 電算機演習室	shigei@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	16	火	14:30～16:00	電気化学	吉本 稔	対面	情報・生体工学棟 71号講義室	myoshi@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	16	火	8:50～10:20	画像情報処理	鹿嶋 雅之	対面	情報・生体工学棟 電算機演習室	kashima@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	18	木	12:50～14:20	電磁気学Ⅰ及び演習	加藤 龍蔵	対面	情報・生体工学棟 71号講義室	ryu@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○
12	19	金	10:30～12:00	情報理論	松元 隆博	対面	情報・生体工学棟 71号講義室	matugen@ibe.kagoshima-u.ac.jp	○

【建築学PG】

月	日	曜日	時 間	授業科目名	担当者名	授業形態 (対面・遠隔)	対面の場合:教室名 遠隔の場合:方法	連絡先(メール)	3日前までに 連絡が必要(※)
12	8,15	月	8:50～10:20	建築構造のしくみ	黒川 善幸	対面	工学部共通棟 302講義室	kurokawa@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	8,15	月	10:30～12:00	鉄筋コンクリート構造	塩屋 晋一	対面	工学部共通棟 301講義室	shin@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	8,15	月	12:50～14:20	現代の地域施設計画	細海 拓也	対面	工学部共通棟 302講義室	hosokai@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	9,16	火	8:50～10:20	環境計画Ⅱ(建)	二宮 秀與	対面	工学部共通棟 302講義室	nimiya@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	9,16	火	10:30～12:00	設計基礎Ⅱ	鷹野, 細海, 朴	対面	建築学1号館 アクティブラーニング室	takano@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	9,16	火	12:50～14:20	構造力学Ⅱ	横須賀 洋平	対面	工学部共通棟 201講義室	yokosuka@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	10,17	水	8:50～10:20	設備計画Ⅱ	二宮 秀與	対面	工学部共通棟 302講義室	nimiya@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	10,17	水	10:30～12:00	建築材料	黒川 善幸	対面	建築学2号館 01教室	kurokawa@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	11,18	木	8:50～10:20	鉄骨構造	倉富 洋	対面	工学部共通棟 301講義室	kuratomi@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	11,18	木	8:50～10:20	建築の様式と技術の歴史Ⅰ	木方 十根	対面	工学部共通棟 302講義室	kikata@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	11,18	木	12:50～14:20	建築設計Ⅱ	鷹野, 木方, 小山	対面	工学部共通棟 302講義室	takano@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	11,18	木	12:50～14:20	建築設計Ⅳ	鷹野, 木方, 小山	対面	工学部共通棟 302講義室	takano@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	12,19	金	8:50～10:20	現代社会の都市・地域計画論	小山 雄資	対面	工学部共通棟 301講義室	koyama@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	12,19	金	10:30～12:00	環境工学Ⅰ	曾我 和弘	対面	工学部共通棟 302講義室	soga@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	12,19	金	10:30～12:00	基礎構造	黒川 善幸	対面	工学部共通棟 301講義室	kurokawa@ae.kagoshima-u.ac.jp	○
12	12,19	金	14:30～16:00	線形代数学Ⅱ	横須賀 洋平	対面	工学部共通棟 301講義室	yokosuka@ae.kagoshima-u.ac.jp	○

令和7年度工学部後期授業参観報告書

令和 年 月 日

① 授業公開・参観科目

科目名 () 授業担当者 ()

② 授業公開・参観実施日時

令和 年 月 日 () 曜日 (: ~ :)

③ 授業参観者

所属・職名 () 氏名 ()

④ 授業進行の手順に関して参考になったかどうか。

1. 参考になった 2. どちらとも言えない 3. その他 ()

⑤ 板書（プロジェクター等）の使い方に関して参考になったかどうか。

1. 参考になった 2. どちらとも言えない 3. その他 ()

⑥ 教材等の工夫に関して参考になったかどうか。

1. 参考になった 2. どちらとも言えない 3. その他 ()

⑦ 授業改善に対して参考になったかどうか。

1. 参考になった 2. どちらとも言えない 3. その他 ()

⑧ 自由記述欄

参観者の方へ：参観後、12月25日（木）までに授業担当者及び各プログラムFD委員へご提出ください。

各プログラム FD 委員：1 月 9 日（金）までに学生係へご提出ください。

ご協力ありがとうございました。

プレビュー

令和7年度工学部後期授業評価アンケート(講義・演習)	
公開/非公開	非公開
受付期間	2026-01-20 08:50 ~ 2026-02-12 23:59

※アンケート集計シートに表示される問題番号を赤の太字で表示しています（例: **1.1**）。

設問1

この授業の内容はシラバスに記載された内容と一致していた。(選択必須)

1.1

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問2

授業の内容はこれから役立つと思う。(選択必須)

1.2

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問3

この授業は興味深いものであった。(選択必須)

1.3

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問4

授業で理解すべき内容そのものの難易度は高かったか。(選択必須)

1.4

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問5

授業は理解できた。(選択必須)

1.5

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問6

使用した教科書や教材は授業の理解に役立った。(選択必須)

1.6

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問7

宿題・レポート・小テストなどは授業の理解に役立った。(宿題・レポート・小テストなどが全くなかった場合は、1.を選んでください。)(選択必須)

1.7

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問8

シラバスに記載された授業目標を達成できそうだった。(選択必須)

1.8

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問9

黒板やスクリーンなどの字は明瞭だった。(遠隔授業においては画面での視覚情報は見やすかったか)(選択必須)

1.9

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問10

教員の声は良く聞こえた。(遠隔授業において機器の音量調整をした上で声はよく聞こえたか)(選択必須)

1.10

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問11

学生に理解させようとする教員の熱意が感じられた。(選択必須)

1.11

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問12

講義中やオフィスアワーで、質問などに対する教員の対応に満足した(遠隔授業においてはmanabaや電子メールを利用した質問などに該当する。質問しなかったときは3とする。)(選択必須)

1.12

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問13

中間試験・レポート・小テストなどについて、解答例の説明や開示と採点後の返却に満足した。(中間試験・レポート・小テストなどが全くなかった場合は、1.を選んでください。)(選択必須)

1.13

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問14

授業は全て出席しましたか。(選択必須)

1.14

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問15

1コマ(90分)の授業に対して、予習と復習の時間(レポート作成時間も含む)を合わせてどれ位をかけたか。(選択必須)

1.15

- 1. ☐ 30分未満
- 2. ☐ 30分～1時間
- 3. ☐ 1～2時間
- 4. ☐ 2～3時間
- 5. ☐ 3時間より多く

設問16

この授業は総合的に見て満足できた。(選択必須)

1.16

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問16-1

設問16で「そうは思わない」と回答した方は、その理由をお書きください。

1.17

設問17

この授業及び中間授業アンケートへの対応について、感じたこと、考えたこと、不満な点、良かった点など、授業改善に役立つ意見を簡潔に書いてください。(遠隔授業について、学習する上でよかったと思う工夫や逆に困ったことなどがあれば、この欄に簡潔に書いてください。ない場合は回答不要です。)

1.18

閉じる



プレビュー

令和7年度工学部後期授業評価アンケート（実験）	
公開/非公開	非公開
受付期間	2026-01-20 08:50 ～ 2026-02-12 23:59

※アンケート集計シートに表示される問題番号を赤の太字で表示しています（例: **1.1**）。

設問1

実験の内容は、シラバスに書かれていた内容と一致していた。**(選択必須)**

1.1

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問2

実験のグループの人数は適当であった。**(選択必須)**

1.2

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問3

実験装置は、指定された実験を行うために適していた。**(選択必須)**

1.3

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問4

実験テーマは、時間内に終了するように配慮されていた。**(選択必須)**

1.4

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問5

実験に使用したテキストあるいはプリントは理解に役立った。**(選択必須)**

1.5

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問6

この実験から講義だけでは理解できないことが分かるようになった。**(選択必須)**

1.6

- 1. ☐ そうは思わない
- 2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
- 3. ☐ どちらとも言えない
- 4. ☐ どちらかと言えばそう思う
- 5. ☐ そう思う

設問7

実験テーマの目的が理解できた。(選択必須)

1.7

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問8

シラバスに記載された授業目標を達成できそうだ。(選択必須)

1.8

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問9

教員は、オフィスアワーなどを利用して、レポートを熱心に見てくれた。(選択必須)

1.9

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問10

担当教員の熱意を感じた。(選択必須)

1.10

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問11

教員は学生に対し実験を行う上で必要な安全教育を行った。(選択必須)

1.11

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問12

TA(ティーチングアシスタント)は実験の指導を熱心にしてくれた。(選択必須)

1.12

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問13

実験書をあらかじめ読んで実験に取りかかった。(選択必須)

1.13

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問14

グループ実験は自ら進んで主体的に行った。(選択必須)

1.14

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない

4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問15

この授業は総合的に見て満足できた。(選択必須)

1.15

1. ☐ そうは思わない
2. ☐ どちらかと言えばそうは思わない
3. ☐ どちらとも言えない
4. ☐ どちらかと言えばそう思う
5. ☐ そう思う

設問15-1

設問15で「そうは思わない」と回答した方は、その理由をお書きください。

1.16

設問16

この実験授業及び中間授業(実験)アンケートへの対応について、感じたこと、考えたこと、不満な点、良かった点など、授業改善に役立つ意見を簡潔に書いてください。(ない場合は回答不要)

1.17

閉じる

令和7年度 後期授業計画改善書（講義・演習用）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに下表の太枠内に載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. **3年間保管して下さい。**

3月23日(月) までにPGのFD委員にPDFで送付して下さい。

記入年月日	令和 年 月 日			
授業科目名				
授業担当代表者				
評価項目 項目番号	アンケートの評点			現時点での自己評価と改善の方策
	今回	前回	前々回	* Pt. 9ゴシックで記入して下さい。
理 解 ⑤				
教材等 ⑥				
宿題・レポート ⑦				
目標達成 ⑧				
明瞭な文字 ⑨				
明瞭な声 ⑩				
熱 意 ⑪				
教員の対応 ⑫				
予習・復習の 時間 ⑮				
満足度 ⑯				
登録者数 [名]	受験者数X [名]	単位取得者数Y [名]	比率(Y/X) [%]	
【成績分布】				
A評価 [名]	B評価 [名]	C評価 [名]	D評価 [名]	F評価 [名]
【総 括】				
成績の評価基準				
学習目標の達成				
前年度の授業計画 改善書に沿って実 施した改善内容と 成果	改善書に沿った授業実施に対する自己評価（三段階評価）			
	改善書に沿って 実施した改善内容 と成果			